別添

フリースクールの実態把握等に関する調査報告書

令和６年 10 月

三重県教育委員会

目　　次

※　フリースクール等民間団体（以下、「FS」という。）

第１章　調査について

１. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２. 調査対象　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

３. 調査内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

第２章　FS に関する調査の結果

１. 県教育委員会が把握している FS への調査
・・・・・・・・・・・・・・・　２～　７

２. FS を利用する児童生徒及び保護者への調査
・・・・・・・・・・・・・・・　８～１８

３. ５年以内で不登校の親の会に参加した保護者
及びその子どもへの調査
・・・・・・・・・・・・・・・　１９～２７

第３章　調査結果からの考察

１. 調査結果のまとめ　・・・・・・・・・・　２８

２. 課題　・・・・・・・・・・・・・・・　２９

３. 考察　・・・・・・・・・・・・・・・　２９

付録　個別意見　・・・・・・・・・・・・・・・　３０以降

第１章　調査について

１．調査の目的

不登校児童生徒の社会的自立に向けて、不登校児童生徒が学びたいと思ったときに学ぶことができるよう、FS の実態や利用する児童生徒及びその保護者のニーズ等を把握することで、本県における効果的な支援のあり方を検討する際の参考とする。

２．調査対象

① 県教育委員会が把握している FS

② FS を利用する又は利用後５年以内の不登校児童生徒及びその保護者

③ ５年以内で不登校の親の会に参加した保護者及びその子ども

３．調査内容

① 「県教育委員会が把握している FS への調査」
団体・施設の概要、設立目的、取組内容、学校との連携状況、経常収益、経常費用、運営上の課題、行政や民間企業等への要望など

② 「FS を利用する又は利用後５年以内の不登校児童生徒及びその保護者への調査」
基本調査、学校や三重県への要望、経済状況、就労状況、不安に感じていること、相談の状況、FS を居場所として選択した理由、FS に望むことなど

③ 「５年以内で不登校の親の会に参加した保護者及びその子どもへの調査」
基本調査、学校や三重県への要望、経済状況、就労状況、不安に感じていること、相談の状況、普段の過ごし方、教育支援センターや FS に望むことなど

第２章　FSに関する調査の結果

１．県教育委員会が把握しているFSへの調査

①　調査対象

　県内の公立学校に在籍している児童生徒が通う県内外のFSのうち県教育委員会が把握した31団体に調査を依頼し、21団体からの回答を得た。

②　調査の時期

　令和６年１月

③　調査項目

A)　団体の名称、所在地、電話番号、メールアドレス、設置者、設置団体、設立年月日、設立目的・団体理念、設置者・設置団体の性格、運営形態
B)　スタッフの雇用形態別人数と所有資格者数
C)　週当たりの開所日数、開所している曜日
D)　一日の開所開始時間・開所終了時間
E)　開所している学校の長期休業期間
F)　受け入れ対象・条件
G)　取組内容
H)　ホームページ等における掲載情報
I)　登録者の人数（校種別）
J)　学校との連携状況・連携方法
K)　通所する児童生徒の家庭の経済状況
L)　奨学金制度
M)　収入・支出
N)　運営上の課題
O)　行政や民間企業への要望

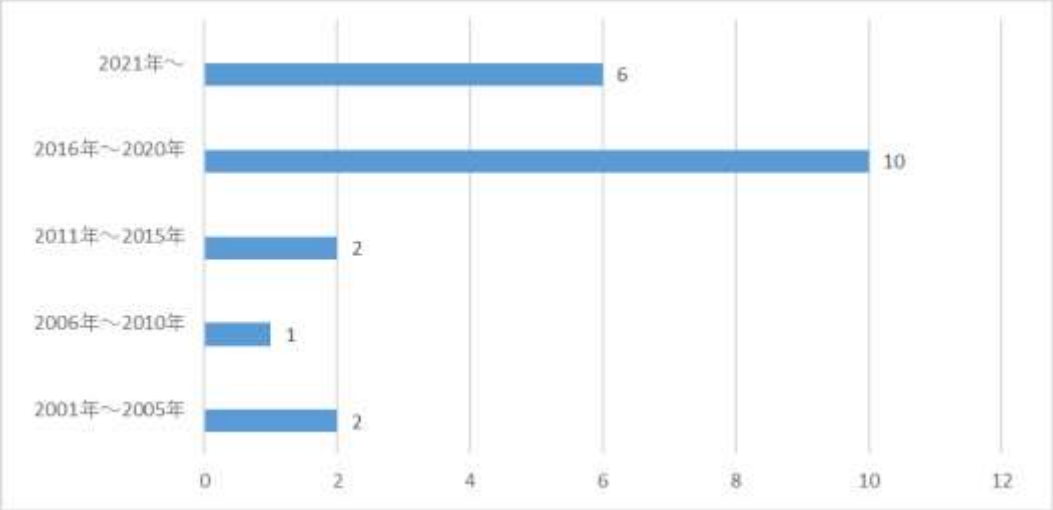
④　調査結果　※団体個別の情報となる項目については掲載していません。

(ア)　回答のあった団体　※提出された順に掲載しています。

学館－ｉｖｙ、株式会社オフィス優、クラスジャパン小中学園、第一学院中等部、
フリースクールいせのもり、フリースペース寺子屋松葉塾、トライ式中等部、
学校法人ＫＴＣ学園おおぞら高等学院三重四日市キャンパス、
認定特定非営利活動法人フリースクール三重シューレ、
フリースクール協（かなう）、みんなの居場所ラピュタすずか、
特定非営利活動法人チャレンジスクール三重、子ども学び舎ワンダーＹＯＵ、
あおぞらん。、一般社団法人家庭教育研究センターＦＡＣＥ、スコーレ倭、
フリースクールけやき、みんなの学び舎「サードプレイス」、ねこバス停留所、
ひのまるキッズＹＵＭＥ　Ｓｃｈｏｏｌ名古屋中央校、
特定非営利活動法人亀っ子サポート

(イ)　設立時期

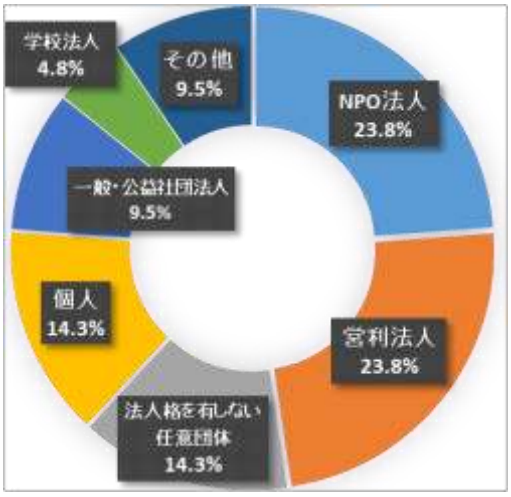
21 団体中 16（76.2%）が 2016 年以降の設立となっており、近年増えてきている。



(ウ)　団体・施設の性格

NPO 法人や営利法人が 23.8%と多くなっているが、様々な性格の団体・施設が FS として活動している。

区分	団体数	割合（%）
NPO 法人	5	23.8
営利法人	5	23.8
法人格を有しない任意団体	3	14.3
個人	3	14.3
一般・公益社団法人	2	9.5
学校法人	1	4.8
その他	2	9.5
計	21	100



(エ)　運営形態

宿泊型はなく、オンライン型のみは 1、通所型のみは 12、通所型・オンライン型・訪問型は 1、通所型・オンライン型は 3、通所型・訪問型は 4 となっている。

区分（複数回答あり）	団体数	割合（%）
通所型	20	95.2
オンライン型	5	23.8
訪問型	5	23.8
宿泊型	0	0.0

(オ)　スタッフの数と保有資格

常勤スタッフは 1 または 2 名で運営している団体が 66.7%となっている。教員免許所有者のいる団体が 13、公認心理師のいる団体が 2、社会福祉士のいる団体が 1 となっている。

常勤スタッフの少ない団体が多いため、非常勤スタッフが多くなっている。教員免許所有者以外に臨床心理士、公認心理師、社会福祉士など専門的な人材を非常勤としている団体が 4 あった。

スタッフの人数別団体数						
人数	常勤	非常勤	有償ボランティア	無償ボランティア	有償学生ボランティア	無償学生ボランティア
1	8	1	1	0	1	1
2	6	1	1	2	1	0
3	2	1	0	0	1	2
4	1	1	0	0	0	0
5	0	0	0	2	0	0
6～10	1	4	0	0	0	0
11以上	0	3	1	1	0	0
0	2	9	17	15	17	17
無回答	1	1	1	1	1	1

21 団体で教員免許所有者 67 人、臨床心理士 4 人、公認心理師 12 人、社会福祉士 2 人、精神保健福祉士 3 人となっている。その他、保育士、臨床発達心理士、特別支援教育士、理学療法士等の資格を持つ人がいる。

(カ)　開所の状況

17 団体（81.0%）が午前中から開所している。5 時間以上開所している団体が 13（61.9%）となっている。

開始時刻	団体数	終了時刻	団体数
8：30～	3	～15：00	5
9：00～	7	～16：00	2
10：00～	7	～17：00	6
11：00～	0	～18：00	3
12：00～	0	～19：00	2
13：00～	1	それ以降	1
14：00～	1	無回答	2
15：00～	2		

(キ)　週当たりの開所日数、開所している曜日

週当たり 5 日以上開所している団体が 66.7%となっている。月曜日から金曜日に開所していることが多い。

区分	団体数	割合（%）
1日	2	9.5
2日	1	4.8
3日	0	0.0
4日	3	14.3
5日	12	57.1
6日	2	9.5
不定期	1	4.8

区分	団体数	割合（%）
月曜日	15	71.4
火曜日	17	81.0
水曜日	17	81.0
木曜日	17	81.0
金曜日	19	90.5
土曜日	5	23.8
日曜日	1	4.8
祝日	1	4.8

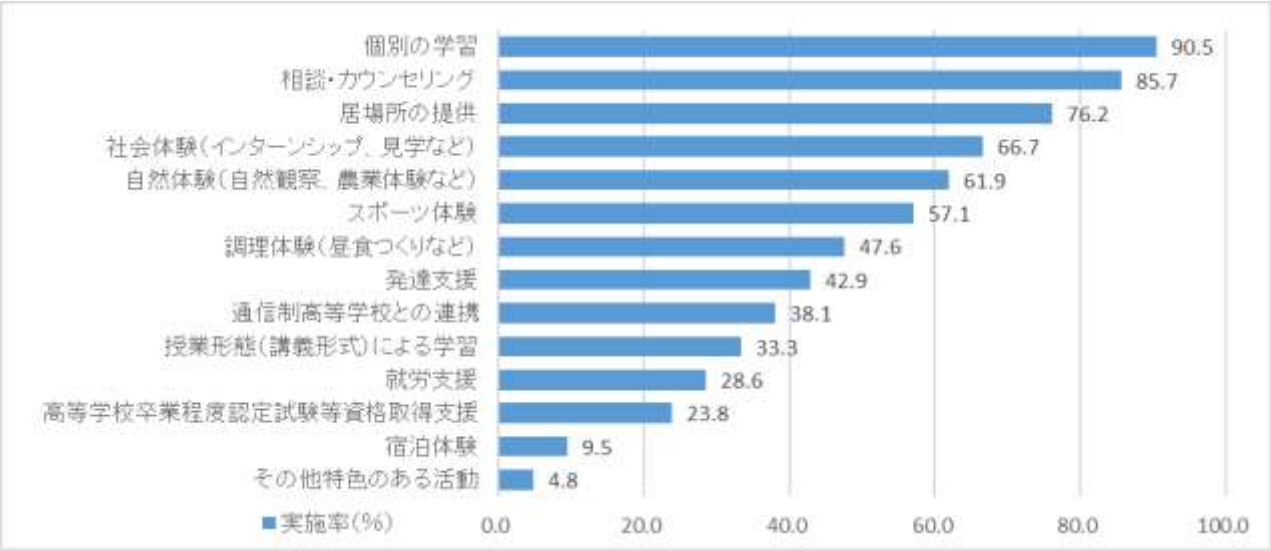
（ク）　受け入れ対象

小中学生を対象としている団体が多い。特別支援学校在籍児童生徒については、施設や設備、専門のスタッフがいないことなどから受け入れていないところが多い。受け入れる前に面談を行うところが多い。

受け入れ対象	団体数	割合（%）
小学生	18	85.7
中学生	19	90.5
高校生	14	66.7
特別支援学校	3	14.3
高等学校卒業者	7	33.3
高校に在籍していない高校生年代の人	8	38.1
その他	2	9.5

（ケ）　活動内容等

90%ほどの団体が個別の学習支援と相談・カウンセリングを行っている。次いで、居場所の提供（76.2%）、社会体験（インターンシップ、見学など）（66.7%）、自然体験（自然観察、農業体験など）（61.9%）となっている。各団体で様々な活動ができるように取り組んでいる。



（コ）　登録人数

※ 通信制高等学校に在籍している生徒や県外 FS で県外の児童生徒数が含まれていると思われる数については除外した。

FS として利用しているのは小中学生が多く、利用者のうち学校の出席扱いになっているのは小学校 45.2%、中学校 70.3%であった。

区分	登録人数	うち学校の出席扱いになっている人数	出席扱いの割合（%）
小学校	62	28	45.2
中学校	74	52	70.3
高等学校	18	0	0
特別支援学校	0	0	0
高等学校卒業者	10	0	0
高等学校に在籍してない高校生年代の人	0	0	0
その他	6	0	0

(サ)　利用者の経済状況の把握

利用する児童生徒の家庭の経済状況については、半数以上の団体で把握していない。

区分	団体数	割合（%）
利用者のうち経済的に苦しい家庭がある	6	28.6
利用者のうち経済的に苦しい家庭がない	4	19.0
把握していない	11	52.4

(シ)　学校との連携状況

連携していない FS は２団体であり、多くの FS は学校と連携している。文書や電話でのやりとりが多い。

区分（複数回答あり）	団体数	割合（%）
文書	18	85.7
電話	16	76.2
訪問（学校へ）	12	57.1
訪問（学校から）	9	42.9
ケース会議へ参加	4	19.0
連携していない	2	9.5

(ス)　運営上の課題

※全ての回答は付録（P.30 以降）に付けています。

＜財政上の課題＞

収入が不安定である。

他の事業による収益を持ち出して賄っている。

適正な人件費の確保が難しいため、寄付や補助金が必要。

財政的に厳しい現状だが、利用者の負担を気にしている。

＜体制の課題＞

個別の支援をするために職員が必要となっているが、人件費を創出できないため増やすことができない。

＜人材の課題＞

様々な問題や悩みを抱えている児童生徒とうまく関わっていける資質のある人を見つけることは簡単ではない。

人材を育てるには時間がかかるが、それまでの人件費の工面が難しい。

＜事業の課題＞

気持ちの安定ややりたいことが見つかることによって前向きになれるよう支援しているため、居場所としての意味合いが強い。

学習についてもスケジュールを組んで取り組んでいかなくてはならないと思うが、その都度対応している場合が多い。

個別対応について助言をいただきたい。

＜施設・設備の課題＞

体を動かすことのできる場所があるとよい。

体験的な学習の機会も確保していきたい。

部屋が１つのため、クールダウンのためや学習用など分けて使えない。

毎月の家賃が重荷となっている。

(セ)　三重県・民間企業等に求めること

＜三重県に対して＞

多くの団体が利用保護者への経済的支援（71.4%）と FS への運営支援（66.7%）を望んでいる。次いで、行政による FS に関する情報発信（42.9%）となっている。

＜民間企業に対して＞

多くの団体が運営費の寄付（61.9%）を望んでいる。次いで、インターンシップ、企業見学等への協力（42.9%）となっている。

三重県に求めること（複数回答あり）	団体数	割合（%）
利用保護者への経済的支援（授業料補助等）	15	71.4
FS への運営支援（賃借料、人件費等の支援）	14	66.7
行政による FS に関する情報発信	9	42.9
利用生徒の通学費補助	8	38.1
体育館やテニスコート等活動場所の提供（利用料金の支援）	7	33.3
FS 利用生徒対象の進路状況（入試制度や高校の紹介等）の提供	6	28.6
学校との連携に係る支援	6	28.6
FS 利用児童生徒の「出席扱い」を促す県独自の基準づくり	6	28.6
FS を紹介するためのイベントの開催	5	23.8
FS への認識を深めるための教職員対象の研修会の開催	4	19.0
学習支援や活動支援ができるボランティアの紹介	3	14.3
インターンシップの環境整備（受入事業所の紹介、謝金への支援）	3	14.3
スタッフが研修を受けるための費用補助	2	9.5
FS の運営に関する助言	1	4.8
スタッフのための不登校支援に係る研修会の開催	1	4.8

民間企業等に求めること（複数回答あり）	団体数	割合（%）
運営費の寄付	13	61.9
インターンシップ、企業見学等への協力	9	42.9
FS を開設する場所の支援（無償提供、賃貸料減額等）	6	28.6
体験活動への講師の派遣	5	23.8
利用家庭の経済的負担軽減に向けた寄付	5	23.8
活動場所の提供（宿泊施設、運動施設）	5	23.8
特になし	3	14.3
無回答	2	9.5

2. FS を利用する児童生徒及び保護者への調査

① 調査対象

県内の公立学校に在籍している児童生徒が通う県内外の FS のうち県教育委員会が把握した 31 団体に調査を依頼し、FS から利用者（過去５年以内の利用者も含む）にアンケート依頼を送付してもらった。FS から 411 の利用家庭に送付し、138 の利用家庭から回答があった。【回収率 33.6%】

② 調査の時期

令和６年１月

③ 調査項目

＜利用者保護者＞

A) 子どもの校種・学年・登校状況、登校しづらくなり始めた学年・時期、不登校の期間、不登校になった理由
B) 誰に相談したか
C) 不安になったこと
D) 学校の対応で困ったこと
E) 学校に求めたいこと
F) 三重県に求めたいこと
G) FS の利用頻度、知ったのは何か、選んだ理由、魅力は何か、望むこと
H) 不登校による保護者の就労状況の変化、世帯収入の変化
I) 不登校による増えた出費
J) 福祉制度の利用状況
K) 不登校に関して感じていることや考えていること

＜利用者＞

L) 不登校になった理由
M) 誰に相談したか
N) 学校を休んでいる間に嫌だったこと
O) 学校や教育支援センター、FS 等に行っていない時の過ごし方
P) 学校に求めたいこと
Q) 三重県に求めたいこと
R) FS の利用頻度、知ったのは何か、選んだ理由、魅力は何か、望むこと
S) 不登校に関して感じていることや考えていること

④ 調査結果　※個人の特定につながる情報については掲載していません。

(ア)　子どもの校種・学年・登校状況

中学校が最も多く 58 人（42.0%）となっており、次いで、小学校 35 人（25.4%）、高等学校 29 人（21.0%）、その他 14 人（10.1%）となっている。

※　その他は高等学校卒業生や中学校卒業生

区分	回答数	割合(%)
小学校	35	25.4
中学校	58	42.0
高等学校	29	21.0
特別支援学校	1	0.7
その他	14	10.1
無回答	1	0.7

学年は中学３年生が最も多く 25 人（18.1%）となっており、次いで、中学２年生 17 人（12.3%）、中学１年生と高校２年生の 16 人（11.6%）となっている。

登校状況は、多いものから順に、まったく登校していない 48 人（34.8%）、時々登校している 47 人（34.1%）、部分的に登校している 38 人（27.5%）、別室に登校している 17 人（12.3%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
まったく登校していない	48	34.8
時々登校している	47	34.1
部分的に登校している	38	27.5
別室に登校している	17	12.3
無回答	8	5.8

区分	回答数	割合（%）
小学1年生	1	0.7
小学2年生	1	0.7
小学3年生	4	2.9
小学4年生	9	6.5
小学5年生	10	7.2
小学6年生	10	7.2
中学1年生	16	11.6
中学2年生	17	12.3
中学3年生	25	18.1
高校1年生	6	4.3
高校2年生	16	11.6
高校3年生	6	4.3
高校卒業後1年目	3	2.2
高校卒業後2年目	5	3.6
高校卒業後3年目	2	1.4
高校卒業後4年目	2	1.4
その他	3	2.2
無回答	2	1.4

(イ)　学校へ行きづらくなり始めた学年・時期

中学１年生が最も多く 26 人（18.8%）、次いで、小学５年生と小学１年生の 19 人（13.8%）となっている。

時期は７～９月が 44 人（31.9%）で最多となっている。

小学生では、学年の前半時期から多くなっているが、中学生は７～９月が多くなっている。

区分	回答数	割合(%)
4~6月	38	27.5
7~9月	44	31.9
10~12月	38	27.5
1~3月	15	10.9
無回答	3	2.2

区分	回答数	割合(%)
小学1年生	19	13.8
小学2年生	11	8.0
小学3年生	9	6.5
小学4年生	10	7.2
小学5年生	19	13.8
小学6年生	10	7.2
中学1年生	26	18.8
中学2年生	15	10.9
中学3年生	4	2.9
高校1年生	7	5.1
高校2年生	6	4.3
その他	1	0.7
無回答	1	0.7

(ウ)　不登校の期間

３年未満が 92 人（66.7%）となっているが、５年以上も 18 人（13.0%）いた。

区分	回答数	割合（%）
１年未満	29	21.0
１年～２年未満	31	22.5
２年～３年未満	32	23.2
３年～４年未満	14	10.1
４年～５年未満	9	6.5
５年以上	18	13.0
無回答	5	3.6

(エ)　不登校になった理由＜保護者の回答＞

身体の不調が最も多く 52 人（37.7%）、次いで、先生のこと 46 人（33.3%）、勉強のこと 41 人（29.7%）となっている。

また、複数回答したのは 105 人（76.1%）となっており、多くの人が複数の理由があり不登校になったことがわかる。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
先生のこと（合わない、怖い、体罰があったなど）	46	33.3
勉強のこと（授業が分からない、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）	41	29.7
友達のこと（いやがらせやいじめ以外）	28	20.3
友達のこと（いやがらせやいじめ）	23	16.7
学校のきまりなどの問題（校則が厳しかった、制服を着たくなかったなど）	22	15.9
入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった	21	15.2
行事に参加するのが嫌だった	19	13.8
部活動の問題（合わなかった、部員とうまくいかなかった、試合や大会に出場できなかった、行きたくなかった、顧問や先輩が厳しかったなど）	8	5.8
SNS等のトラブル	2	1.4
上記以外の理由で学校生活と合わなかった	19	13.8
身体の不調（学校に行こうとすると腹痛、頭痛、微熱などの症状が出るなど）	52	37.7
学校に行く意味を見いだせていないようだった	27	19.6
きっかけが何かわからない	19	13.8
朝起きることができない（起立性調節障害など）	17	12.3
親子の関係（仲が悪かった、意思疎通がうまくできないなど）	9	6.5
他にも学校を休んでいる家族がいて影響を受けた	7	5.1
インターネット、ゲーム、動画視聴、SNSの影響（一度始めると止められなかったなど）	5	3.6
家族関係（お子様以外の家族同士の仲が悪かった、家族が失業した、家族が離れ離れになったなど）	4	2.9
特にきっかけはないと思う	4	2.9
答えたくない	2	1.4
家族の世話や家事が忙しかった	1	0.7
その他	15	10.9
無回答	2	1.4

（オ）　誰に相談したか＜保護者の回答＞

担任の先生が 99 人（71.7%）で最も多くなっている。次いで、配偶者 61 人（44.2%）、スクールカウンセラー60 人（43.5%）、FS 等民間団体の職員 59 人（42.8%）、医療関係者 58 人（42.0%）となっている。

また、複数回答したのは 126 人（91.3%）となっており、多くの人が複数の人に相談していることがわかる。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
担任の先生	99	71.7
配偶者	61	44.2
スクールカウンセラー	60	43.5
FS等民間団体の職員	59	42.8
医療関係者	58	42.0
家族・親族（父母や兄弟姉妹、いとこなど）	50	36.2
友人	45	32.6
学校外のカウンセラー	40	29.0
教育支援センターの職員	38	27.5
担任、養護教諭以外の学校の先生	32	23.2
塾や習い事の先生	28	20.3
参加している「不登校親の会」などのメンバー	26	18.8
同じ学校の保護者	23	16.7
養護教諭	17	12.3
電話やSNSの相談員	5	3.6
誰にも相談しなかった	3	2.2
覚えていない	0	0.0
その他	4	2.9
無回答	1	0.7

(カ)　不安になったこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

将来のことが 89 人（64.5%）で最も多くなっている。次いで、学習のこと 84 人（60.9%）、お子様の健康（心身とも）83 人（60.1%）、進路のこと 82 人（59.4%）となっている。

また、複数回答したのは 109 人（79.0%）となっており、複数のことに不安を感じていることがわかる。特に、80 人を超えている内容については、子どもを案ずる内容となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
将来のこと	89	64.5
学習のこと	84	60.9
お子様の健康（心身とも）	83	60.1
進路のこと	82	59.4
ひきこもることへの不安	65	47.1
お子様への接し方	50	36.2
お子様の友人関係	48	34.8
特になし	6	4.3
その他	7	5.1
無回答	2	1.4

(キ)　学校の対応で困ったこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

特になしが 57 人（41.3%）で最も多くなっている。学校からの連絡が多いことや先生やクラスメイトからの声かけが多いことに困る人の割合が高い。また、その他の記述では、「先生が忙しそうで声をかけにくかった。」、「あまり相談に乗ってもらえなかった。」、「寄り添った対応をしてもらえなかった。」、「こちらの思いを理解して対応してもらえた。」という意見があった。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が多い	28	20.3
「学校においでよ」等の先生からの声かけが多い	25	18.1
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が少ない	22	15.9
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が少ない	15	10.9
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が多い	14	10.1
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけが多い	12	8.7
「学校においでよ」等の先生からの声かけが少ない	8	5.8
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけが少ない	7	5.1
特になし	57	41.3
その他	19	13.8
無回答	20	14.5

(ク)　学校に求めたいこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

安心して休める対応が 56 人（40.6%）で最も多くなっている。次いで、校内教育支援センターの設置 47 人（34.1%）、学校に戻りやすくするための支援 31 人（22.5%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
安心して休める対応	56	40.6
教室に入りづらい子どもの居場所（校内教育支援センター）の設置	47	34.1
学校に戻りやすくするための支援（同級生との関係づくり、活動時間をずらすなどの工夫等）	31	22.5
中心となって不登校支援をする先生がわかるようにしてほしい	23	16.7
学校との連絡や連携を子どもや保護者の状況に応じてしてほしい	22	15.9
気軽に相談できるようにしてほしい	21	15.2
ICTを活用した学習の出席扱い	21	15.2
オンラインによる授業の受講	20	14.5
オンデマンド（ビデオ教材等）による授業の受講	15	10.9
進路情報の提供	14	10.1
訪問型支援（スクールカウンセラーによる家庭訪問等）	10	7.2
特になし	14	10.1
その他	14	10.1
無回答	3	2.2

(ケ)　三重県に求めたいこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

学びの多様化学校の設置が 80 人（58.0%）で最も多くなっている。次いで、FS 等民間団体の利用料金の補助 68 人（49.3%）、学校以外の子どもたちの居場所づくり 43 人（31.2%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
学びの多様化学校（不登校の子どもが通いやすい学校）の設置	80	58.0
FS等民間団体の利用料金の補助	68	49.3
学校以外の子どもたちの居場所づくり	43	31.2
様々な相談先やFSなどの情報提供	23	16.7
いつもスクールカウンセラーがいる	10	7.2
特になし	6	4.3
その他	8	5.8
無回答	1	0.7

(コ)　FS の利用について＜保護者の回答＞

区分	回答数	割合(%)
週1回程度	27	19.6
週2～3日程度	31	22.5
週4～5日程度	24	17.4
月1～2回程度	16	11.6
特に決まっていない	37	26.8
無回答	3	2.2

利用頻度は特に決まっていないが 37 人（26.8%）で最も多くなっている。次いで、週 2～3 日程度 31 人（22.5%）となっているが、他の回答も一定数あり、子どもに応じた頻度で利用していると思われる。

利用した FS を知ったのは、FS のホームページ等からが 52 人（37.7%）が最も多く、次いで、知り合いの紹介 38 人（27.5%）となっている。

区分(複数回答あり)	回答数	割合(%)
FSのホームページ等	52	37.7
知り合いの紹介	38	27.5
在籍している学校	12	8.7
スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの紹介	10	7.2
不登校関係の相談会等	10	7.2
不登校の親の会	9	6.5
県教育委員会のホームページ	2	1.4
市町の相談窓口	1	0.7
その他	19	13.8
無回答	3	2.2

区分(複数回答あり)	回答数	割合(%)
雰囲気がよかった	73	52.9
方針がよかった	67	48.6
どこかとつながってほしかった	55	39.9
友達をつくってほしかった	16	11.6
教育支援センターは合わなかった	12	8.7
他の保護者の方にすすめられた	12	8.7
子どもの友達が行っていた	6	4.3
その他	28	20.3
無回答	1	0.7

利用した FS を選んだ理由は雰囲気がよかったが 73 人（52.9%）で最も多く、次いで、方針がよかった 67 人（48.6%）、どこかとつながってほしかった 55 人（39.9%）となっている。

利用した FS の魅力は、ありのままの子どもを認めてくれるが 97 人（70.3%）で最も多く、次いで、安心して過ごすことができる 94 人（68.1%）となっている。

区分(複数回答あり)	回答数	割合(%)
ありのままの子どもを認めてくれる	97	70.3
安心して過ごすことができる	94	68.1
子どものペースで生活ができる	71	51.4
好きなことができる	62	44.9
利用料が他より安い	14	10.1
その他	10	7.2
無回答	5	3.6

FS に望むことは、このままの FS であってほしいが 63 人（45.7%）で最も多く、次いで、利用料を安くしてほしい 38 人（27.5%）、学習支援をもっとしてほしい 27 人（19.6%）となっている。　※その他の回答は付録

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
このままのFSであってほしい	63	45.7
利用料を安くしてほしい	38	27.5
学習支援をもっとしてほしい	27	19.6
個別で過ごすことができる部屋がほしい	21	15.2
もっと体験活動（創作活動、軽スポーツ、野外活動など）を計画してほしい	20	14.5
進路について考えるため、もっと情報がほしい	16	11.6
在籍校と連携してほしい	12	8.7
友達と関わる時間を増やしてほしい	12	8.7
利用するFS以外のこどもと交流する機会をもってほしい	10	7.2
図書館や美術館、博物館など、外の施設を利用してほしい	9	6.5
食事を提供してほしい	9	6.5
施設や設備を充実してほしい（十分な活動場所の確保）	7	5.1
カウンセリングを受けたい（もっと受けたい）	6	4.3
無理にカウンセリングを勧めないでほしい	1	0.7
もっと指導員に関わってほしい	1	0.7
指導員は関わりすぎずに少し放っておいてほしい	0	0.0
その他	5	3.6
無回答	7	5.1

（サ）　家庭の経済状況等について

保護者の就労状況が変化したのは 69 人（50.0%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
変化があった	69	50.0
変化なし	67	48.6
無回答	2	1.4

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
遅刻・早退が増えた	25	36.2
休みがちになった	17	24.6
転職した	14	20.3
休職した	4	5.8
（正規から非正規など）雇用形態が変わった	3	4.3
その他	24	34.8
無回答	1	1.4

変化があった 69 人のうち、25 人（36.2%）が遅刻・早退が増えたと答えた。

その他には、時間や仕事を調整した、退職した、部署を変更してもらったなどの回答があった。

収入に変化はなかったのは 85 人（61.6%）となっているが、収入が減ったのは 48 人（34.8%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
収入に変化はない	85	61.6
収入が減った	48	34.8
収入が増えた	2	1.4
無回答	3	2.2

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
FS等の民間団体の利用料	92	66.7
交通費や送迎費の燃料費	81	58.7
食費	67	48.6
光熱水費	48	34.8
パソコンやタブレット等の学習端末購入費	21	15.2
教材購入費	17	12.3
特にない	11	8.0
その他	5	3.6
無回答	3	2.2

増えた出費で最も多いのは、FS 等の民間団体の利用料で 92 人（66.7%）、次いで、交通費や送迎費の燃料費 81 人（58.7%）、食費 67 人（48.6%）、光熱水費 48 人（34.8%）となっている。

補助制度等の利用状況は、補助制度等の該当なしが 79 人（57.2%）となっているが、児童扶養手当受給 36 人（26.1%）、就学援助受給 16 人（11.6%）、住民税非課税世帯 10 人（7.2%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
該当なし	79	57.2
児童扶養手当	36	26.1
就学援助	16	11.6
住民税非課税	10	7.2
奨学給付金	5	3.6
生活保護	0	0.0
無回答	10	7.2

(シ)　不登校に関することで、感じていることや考えていること＜保護者の回答＞

※全ての回答は付録

FS の利用料の補助を求める意見や様々な子どもたちの理解や配慮ができる学校が増えてほしいという意見、不登校になったことで感じたことなどの意見がありました。

(ス)　不登校になった理由＜子どもの回答＞

先生のことが最も多く 37 人（26.8%）、次いで、勉強のこと 31 人（22.5%）、身体の不調 31 人（22.5%）、きっかけが自分でもよくわからない 27 人（19.6%）となっている。

また、複数回答をしたのは 89 人（64.5%）となっており、多くの人が複数の理由があり不登校になったことがわかる。

区分(複数回答あり)	回答数	割合（%）
先生のこと（合わない、怖い、体罰があったなど）	37	26.8
勉強のこと（授業が分からない、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）	31	22.5
友達のこと（いやがらせやいじめ以外）	26	18.8
友達のこと（いやがらせやいじめ）	24	17.4
行事に参加するのが嫌だった	19	13.8
学校のきまりなどの問題（校則が厳しかった、制服を着たくなかったなど）	17	12.3
入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった	16	11.6
部活動の問題（合わなかった、部員とうまくいかなかった、試合や大会に出場できなかった、行きたくなかった、顧問や先輩が厳しかったなど）	9	6.5
SNS等のトラブル	2	1.4
上記以外の理由で学校生活と合わなかった	12	8.7
身体の不調（学校に行こうとするとお腹がいたくなったり、頭が痛くなったりする）	31	22.5
きっかけっが何か自分でもよくわからない	27	19.6
学校に行く必要性が理解できず、行かなくてもいいと思った	18	13.0
朝起きることができない（起立性調節障害など）	16	11.6
インターネット、ゲーム、動画視聴、SNSの影響（一度始めると止められなかったなど）	8	5.8
答えたくない	8	5.8
親子のこと（親と仲が悪かった、親が怒った、注意されるのがいやだったなど）	6	4.3
特にきっかけはないと思う	6	4.3
兄弟や姉妹に学校を休んでいる人がいて影響を受けた	3	2.2
家族関係（自分以外の家族同士の仲が悪かった、家族が失業した、家族が離れ離れになったなど）	2	1.4
家族の世話や家事が忙しかった	2	1.4
親・親せきにたたかれたりなぐられたり、食事を与えられなかったりした	0	0.0
その他	5	3.6
無回答	8	5.8

(セ)　誰に相談したか＜子どもの回答＞

母親が最も多く 88 人（63.8%）、次いで、担任の先生 22 人（15.9%）、スクールカウンセラー18 人（13.0%）、父親 18 人（13.0%）となっている。また、誰にも相談しなかった 13 人（9.4%）となっており、各相談機関が子どもにとって相談しやすいところとなる必要性を感じる。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
母親	88	63.8
担任の先生	22	15.9
スクールカウンセラー	18	13.0
父親	18	13.0
FS等民間団体の職員	15	10.9
誰にも相談しなかった	13	9.4
医療関係者	11	8.0
SNSでつながった人	10	7.2
覚えていない	10	7.2
養護教諭（保健室の先生）	9	6.5
父親・母親以外の家族・親せき（祖父母や兄弟姉妹、おじおば、いとこなど）	9	6.5
塾や習い事の先生	8	5.8
担任・養護教諭（保健室先生）以外の学校の先生	6	4.3
学校外のカウンセラー	6	4.3
教育支援センターの職員	6	4.3
学校の友達	5	3.6
学校外の友達	1	0.7
電話やSNSの相談員	0	0.0
その他	3	2.2
無回答	10	7.2

(ソ)　学校の対応で嫌だったこと＜子どもの回答＞　※その他の回答は付録

特になしと登校を促すような家族からの声かけが 35 人（25.4%）で最も多くなっている。学校からの連絡が多いことや先生やクラスメイトからの声かけが多いことを嫌に思う人の割合が高い。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
登校を促すような家族からの声かけ	35	25.4
「学校においでよ」等の先生からの声かけが多い	27	19.6
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が多い	24	17.4
覚えていない	23	16.7
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけや手紙が多い	12	8.7
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が多い	8	5.8
学校以外の相談窓口に行くこと	5	3.6
自分の意思とは関係なく医療機関に連れていかれること	5	3.6
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が少ない	2	1.4
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が少ない	2	1.4
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけや手紙が少ない	2	1.4
「学校においでよ」等の先生からの声かけが少ない	0	0.0
特になし	35	25.4
その他	9	6.5
無回答	11	8.0

(タ)　学校や教育支援センター、FS 等に行っていない間の過ごし方

ゲームが 95 人（68.8%）で最も多くなっている。次いで、テレビや動画等の視聴 91 人（65.9%）、寝ている 49 人（35.5%）、興味・関心があること（読書、ボランティア活動等）42 人（30.4%）となっている。

塾や習い事、地域の公共施設の利用、カウンセリングや相談機関の利用、放課後等デイサービスの利用など外とのつながりを持っている人もいる一方、特に何もしていないと答えている人が 7 人（5.1%）いる。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
ゲーム	95	68.8
テレビや動画等の視聴	91	65.9
寝ている	49	35.5
興味・関心があること（読書、ボランティア活動等）	42	30.4
SNS等での友達との交流	25	18.1
塾や習い事	20	14.5
放課後等デイサービスの利用	18	13.0
オンライン教材や動画視聴による学習	16	11.6
外遊び	10	7.2
カウンセリングや相談機関の利用	7	5.1
地域の公共施設（公民館、児童館、図書館など）の利用	6	4.3
家庭教師やアウトリーチ活動（訪問型支援）等による来宅ｻﾎﾟｰﾄの利用	2	1.4
子ども食堂などの居場所の利用	2	1.4
特に何もしていない	7	5.1
その他	7	5.1
無回答	6	4.3

(チ)　学校に求めたいこと＜子どもの回答＞　※その他の回答は付録

安心して休める対応が 55 人（39.9%）で最も多く、次いで、特になし 36 人（26.1%）、校内教育支援センターの設置 26 人（18.8%）、オンラインによる授業の受講 19 人（13.8%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
安心して休める対応	55	39.9
教室に入りづらい子どもの居場所（校内教育支援センター）の設置	26	18.8
オンラインによる授業の受講	19	13.8
学校に戻りやすくするための支援（同級生との関係づくり、活動時間をずらすなどの工夫等）	17	12.3
気軽に相談できるようにしてほしい	15	10.9
ICTを活用した学習の出席扱い	11	8.0
学校との連絡や連携を子どもや保護者の状況に応じてしてほしい	8	5.8
進路情報の提供	8	5.8
オンデマンド（ビデオ教材等）による授業の受講	7	5.1
中心となって不登校支援をする先生がわかるようにしてほしい	5	3.6
訪問型支援（スクールカウンセラーによる家庭訪問等）	2	1.4
特になし	36	26.1
その他	7	5.1
無回答	11	8.0

(ツ)　三重県に求めたいこと＜子どもの回答＞　※その他の回答は付録

学びの多様化学校の設置が 43 人（31.2%）で最も多くなっている。次いで、特になし 40 人（29.0%）、学校以外の子どもたちの居場所づくり 32 人（23.2%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
学びの多様化学校（不登校の子どもが通いやすい学校）の設置	43	31.2
学校以外の子どもたちの居場所づくり	32	23.2
FS等民間団体の利用料金の補助	29	21.0
いつもスクールカウンセラーがいる	14	10.1
様々な相談先やFSなどの情報提供	9	6.5
特になし	40	29.0
その他	7	5.1
無回答	11	8.0

(テ)　FS の利用について＜子どもの回答＞

区分	回答数	割合（%）
週1回程度	30	21.7
週2～3日程度	31	22.5
週4～5日程度	23	16.7
月1～2回程度	14	10.1
特に決まっていない	33	23.9
無回答	7	5.1

利用頻度は特に決まっていないが 33 人（23.9%）で最も多くなっている。次いで、週 2～3 日程度 31 人（22.5%）となっているが、他の回答も一定数あり、それぞれに合った頻度で利用していると思われる。

利用した FS を知ったのは、保護者からの紹介が 84 人（60.9%）で最も多く、次いで、知り合いの紹介 20 人（14.5%）、FS のホームページ等 14 人（10.1%）となっている。

区分(複数回答あり)	回答数	割合（%）
保護者からの紹介	84	60.9
知り合いの紹介	20	14.5
FSのホームページ等	14	10.1
在籍している学校	5	3.6
カウンセラーやスクールソーシャルワーカーの紹介	5	3.6
県教育委員会のホームページ	1	0.7
市町の相談窓口	0	0.0
その他	13	9.4
無回答	8	5.8

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
親がすすめた	66	47.8
雰囲気がよかった	61	44.2
方針がよかった	33	23.9
学校以外の場所に行きたかった	23	16.7
友達がほしかった	11	8.0
友達が行っていた	7	5.1
教育支援センターは合わなかった	3	2.2
その他	14	10.1
無回答	8	5.8

利用した FS を選んだ理由は親がすすめたが 66 人（47.8%）で最も多く、次いで、雰囲気がよかった 61 人（44.2%）、方針がよかった 33 人（23.9%）、学校以外の場所に行きたかった 23 人（16.7%）となっている。

利用した FS の魅力は、安心して過ごすことができるが 66 人（47.8%）で最も多く、次いで、好きなことができる 60 人（43.5%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
安心して過ごすことができる	66	47.8
好きなことができる	60	43.5
自分のペースで生活ができる	53	38.4
ありのままの自分を認めてくれる	50	36.2
コミュニケーションがとりやすい	40	29.0
その他	17	12.3
無回答	11	8.0

FS に望むことは、このままの FS であってほしいが 69 人（50.0%）で最も多く、次いで、個別で過ごすことができる部屋がほしい 19 人（13.8%）、もっと体験活動を計画してほしい 15 人（10.9%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
このままのFSであってほしい	69	50.0
個別で過ごすことができる部屋がほしい	19	13.8
もっと体験活動（創作活動、軽スポーツ、野外活動など）を計画してほしい	15	10.9
利用料を安くしてほしい	11	8.0
学習支援をもっとしてほしい	9	6.5
図書館や美術館、博物館など、外の施設を利用してほしい	7	5.1
進路について考えるため、もっと情報がほしい	7	5.1
施設や設備を充実してほしい（十分な活動場所の確保）	5	3.6
カウンセリングを受けたい（もっと受けたい）	4	2.9
利用するFS以外のこどもと交流する機会をもってほしい	4	2.9
指導員は関わりすぎずに少し放っておいてほしい	4	2.9
友達と関わる時間を増やしてほしい	4	2.9
もっと指導員に関わってほしい	3	2.2
無理にカウンセリングを勧めないでほしい	2	1.4
在籍している学校と連携してほしい	1	0.7
食事を提供してほしい	1	0.7
その他	5	3.6
無回答	20	14.5

（ト）　不登校に関することで、感じていることや考えていること＜子どもの回答＞
※全ての回答は付録

社会復帰できるような制度を望む意見や当時の心境や原因についての回答がありました。

3. ５年以内で不登校の親の会に参加した保護者及びその子どもへの調査

① 調査対象

県教育委員会が把握した不登校の親の会６団体から過去５年以内に関わりのあった保護者にアンケート依頼を送付してもらった。194 の利用者に送付し、60 の利用家庭から回答があった。【回収率 30.9%】

② 調査の時期

令和６年１月

③ 調査項目

＜親の会利用者（保護者）＞

A) 子どもの校種・学年・登校状況、登校しづらくなり始めた学年・時期、不登校の期間、不登校になった理由
B) 誰に相談したか
C) 不安になったこと
D) 学校の対応で困ったこと
E) 学校に求めたいこと
F) 三重県に求めたいこと
G) 教育支援センターや FS の利用状況や望むこと
H) 不登校による保護者の就労状況の変化、世帯収入の変化
I) 不登校による増えた出費
J) 福祉制度の利用状況
K) 不登校に関して感じていることや考えていること

＜親の会利用者の子ども＞

L) 不登校になった理由
M) 誰に相談したか
N) 学校を休んでいる間に嫌だったこと
O) 学校や教育支援センター、FS 等に行っていない時の過ごし方
P) 学校に求めたいこと
Q) 三重県に求めたいこと
R) 教育支援センターや FS の利用状況や望むこと
S) 不登校に関して感じていることや考えていること

④ 調査結果　※個人の特定につながる情報については掲載していません。

(ア)　子どもの校種・学年・登校状況

中学校が最も多く 25 人（41.7%）となっており、次いで、高等学校が 17 人（28.3%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
小学校	8	13.3
中学校	25	41.7
高等学校	17	28.3
特別支援学校	0	0.0
その他	9	15.0
無回答	1	1.7

学年は中学３年生が最も多く 11 人（18.6%）となっており、次いで、中学２年生 10 人（16.9%）、高校２年生８人（13.6%）となっている。

登校状況は、多いものから順に、まったく登校していない 26 人（43.3%）、部分的に登校している 18 人（30.0%）、時々登校している 12 人（20.0%）、別室に登校している６人（10.0%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
まったく登校していない	26	43.3
部分的に登校している	18	30.0
時々登校している	12	20.0
別室に登校している	6	10.0
無回答	6	10.0

区分	回答数	割合（%）
小学校1年生	1	1.7
小学校2年生	0	0.0
小学校3年生	2	3.4
小学校4年生	0	0.0
小学校5年生	3	5.1
小学校6年生	2	3.4
中学校1年生	3	5.1
中学校2年生	10	16.9
中学校3年生	11	18.6
高校1年生	4	6.8
高校2年生	8	13.6
高校3年生	2	3.4
高校4年生	1	1.7
高校卒業後1年目	2	3.4
高校卒業後2年目	4	6.8
高校卒業後3年目	1	1.7
その他	6	10.2

(イ)　学校へ行きづらくなり始めた学年・時期

中学１年生が最も多く 11 人（18.3%）、次いで、中学２年生と小学５年生、小学３年生の８人（13.3%）となっている。

時期は４～６月と 7～9 月が 18 人（30.0%）となっている。

中学生では、学年の前半時期から多くなってるが、小学生は７～９月が多くなっている。

区分	回答数	割合（%）
4～6月	18	30.0
7～9月	18	30.0
10～12月	16	26.7
1～3月	4	6.7
無回答	4	6.7

区分	回答数	割合（%）
小学1年生	5	8.3
小学2年生	4	6.7
小学3年生	8	13.3
小学4年生	4	6.7
小学5年生	8	13.3
小学6年生	5	8.3
中学1年生	11	18.3
中学2年生	8	13.3
中学3年生	2	3.3
高校1年生	2	3.3
高校2年生	1	1.7
高校3年生	0	0.0
高校4年生	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	2	3.3

(ウ)　不登校の期間

３年未満が 28 人（46.7%）となっているが、５年以上も 16 人（26.7%）いた。

区分	回答数	割合（%）
1 年未満	7	11.7
1 年～2 年未満	11	18.3
2 年～3 年未満	10	16.7
3 年～4 年未満	9	15.0
4 年～5 年未満	5	8.3
5 年以上	16	26.7
無回答	2	3.3

(エ)　不登校になった理由＜保護者の回答＞

友達のこと（いやがらせやいじめ以外）が最も多く 20 人（33.3%）、次いで、先生のこと、身体の不調 18 人（30.0%）、友達のこと（いやがらせやいじめ）15 人（25.0%）となっている。

また、複数回答したのは 55 人（91.6%）となっており、多くの人が複数の理由があり不登校になったことがわかる。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
友達のこと（いやがらせやいじめ以外）	20	33.3
先生のこと（合わない、怖い、体罰があったなど）	18	30.0
友達のこと（いやがらせやいじめ）	15	25.0
勉強のこと（授業が分からない、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）	12	20.0
入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった	11	18.3
学校のきまりなどの問題（校則が厳しかった、制服を着たくなかったなど）	10	16.7
部活動の問題（合わなかった、部員とうまくいかなかった、試合や大会に出場できなかった、行きたくなかった、顧問や先輩が厳しかったなど）	8	13.3
行事に参加するのが嫌だった	4	6.7
SNS等のトラブル	1	1.7
上記以外の理由で学校生活と合わなかった	11	18.3
身体の不調（学校に行こうとすると腹痛、頭痛、微熱などの症状が出るなど）	18	30.0
きっかけが何かわからない	13	21.7
学校に行く意味を見いだせていないようだった	11	18.3
親子の関係（仲が悪かった、意思疎通がうまくできないなど）	8	13.3
家族関係（お子様以外の家族同士の仲が悪かった、家族が失業した、家族が離れ離れになったなど）	7	11.7
朝起きることができない（起立性調節障害など）	7	11.7
インターネット、ゲーム、動画視聴、SNSの影響（一度始めると止められなかったなど）	5	8.3
他にも学校を休んでいる家族がいて影響を受けた	4	6.7
特にきっかけはないと思う	3	5.0
家族の世話や家事が忙しかった	0	0.0
答えたくない	0	0.0
その他	2	3.3
無回答	1	1.7

（オ）　誰に相談したか＜保護者の回答＞

担任の先生が 48 人（80.0%）で最も多くなっている。次いで、スクールカウンセラー45 人（75.0%）、不登校親の会などのメンバー36 人（60.0%）、配偶者 35 人（58.3%）、医療関係者 31 人（51.7%）となっている。

また、複数回答したのは 59 人（98.3%）となっており、無回答を除くすべての人が複数の人に相談している。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
担任の先生	48	80.0
スクールカウンセラー	45	75.0
参加している「不登校親の会」などのメンバー	36	60.0
配偶者	35	58.3
医療関係者	31	51.7
教育支援センターの職員	29	48.3
家族・親族（父母や兄弟姉妹、いとこなど）	27	45.0
学校外のカウンセラー	21	35.0
担任、養護教諭以外の学校の先生	20	33.3
友人	19	31.7
同じ学校の保護者	17	28.3
養護教諭	15	25.0
FS等民間団体の職員	15	25.0
塾や習い事の先生	7	11.7
電話やSNSの相談員	3	5.0
誰にも相談しなかった	0	0.0
覚えていない	0	0.0
その他	3	5.0
無回答	1	1.7

(カ)　不安になったこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

将来のことが 48 人（80.0%）で最も多くなっている。次いで、お子様の健康（心身とも）45 人（75.0%）、進路のこと 38 人（63.3%）、学習のこと 37 人（61.7%）となっている。

また、複数回答したのは 51 人（85.0%）となっており、複数のことに不安を感じていることがわかる。特に、60%を超えている内容については、子どもを案ずる内容となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
将来のこと	48	80.0
お子様の健康（心身とも）	45	75.0
進路のこと	38	63.3
学習のこと	37	61.7
お子様への接し方	33	55.0
ひきこもることへの不安	33	55.0
お子様の友人関係	25	41.7
特になし	1	1.7
その他	3	5.0
無回答	4	6.7

(キ)　学校の対応で困ったこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

特になしが 18 人（30.0%）で最も多くなっている。学校からの連絡等が少ないことに困る人の割合の方が高い。また、その他の記述では、「子どもの状況も常時変化するので、連絡が欲しい時もあれば、しばらくそっとしておいてほしいときもあります。その都度家庭や本人に相談してほしい。」、「欠席の連絡をしなければならないのが、精神的にきつかった。」という意見があった。

区分(複数回答あり)	回答数	割合（%）
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が少ない	14	23.3
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が少ない	11	18.3
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が多い	10	16.7
「学校においでよ」等の先生からの声かけが少ない	9	15.0
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が多い	6	10.0
「学校においでよ」等の先生からの声かけが多い	6	10.0
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけが少ない	4	6.7
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけが多い	3	5.0
特になし	18	30.0
その他	12	20.0
無回答	13	21.7

(ク)　学校に求めたいこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

校内教育支援センターの設置が 26 人（43.3%）で最も多くなっている。次いで、中心となって不登校支援をする先生がわかるようにしてほしい 20 人（33.3%）、安心して休める対応 18 人（30.0%）、オンラインによる授業の受講 16 人（26.7%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
教室に入りづらい子どもの居場所（校内教育支援センター）の設置	26	43.3
中心となって不登校支援をする先生がわかるようにしてほしい	20	33.3
安心して休める対応	18	30.0
オンラインによる授業の受講	16	26.7
オンデマンド（ビデオ教材等）による授業の受講	11	18.3
ICTを活用した学習の出席扱い	11	18.3
気軽に相談できるようにしてほしい	10	16.7
学校との連絡や連携を子どもや保護者の状況に応じてしてほしい	10	16.7
進路情報の提供	10	16.7
学校に戻りやすくするための支援 （同級生との関係づくり、活動時間をずらすなどの工夫等）	6	10.0
訪問型支援（スクールカウンセラーによる家庭訪問等）	4	6.7
特になし	4	6.7
その他	5	8.3

(ケ)　三重県に求めたいこと＜保護者の回答＞　※その他の回答は付録

学びの多様化学校の設置が 36 人（60.0%）で最も多くなっている。次いで、学校以外の子どもたちの居場所づくり 24 人（40.0%）、FS 等民間団体の利用料金の補助 19 人（31.7%）、となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
学びの多様化学校（不登校の子どもが通いやすい学校）の設置	36	60.0
学校以外の子どもたちの居場所づくり	24	40.0
FS等民間団体の利用料金の補助	19	31.7
様々な相談先やFSなどの情報提供	15	25.0
いつもスクールカウンセラーがいる	4	6.7
特になし	0	0.0
その他	7	11.7
無回答	1	1.7

(コ)　教育支援センターや FS の利用について

教育支援センターを利用したのは 26 人（43.3%）、どちらも利用していないも 26 人（43.3%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
教育支援センターを利用	26	43.3
FS を利用	4	6.7
どちらも利用	3	5.0
どちらも利用してない	26	43.3
無回答	1	1.7

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
学習支援をもっとしてほしい	18	30.0
個別で過ごすことができる部屋がほしい	17	28.3
進路について考えるため、もっと情報がほしい	17	28.3
もっと体験活動（創作活動、軽スポーツ、野外活動など）を計画してほしい	16	26.7
施設や設備を充実してほしい（十分な活動場所の確保）	16	26.7
在籍校と連携してほしい	14	23.3
利用料を安くしてほしい	11	18.3
食事を提供してほしい	9	15.0
カウンセリングを受けたい（もっと受けたい）	8	13.3
無理にカウンセリングを勧めないでほしい	6	10.0
図書館や美術館、博物館など、外の施設を利用してほしい	6	10.0
利用する施設以外の子どもと交流する機会をもってほしい	4	6.7
このままでよい	4	6.7
友達と関わる時間を増やしてほしい	3	5.0
指導員は関わりすぎずに少し放っておいてほしい	2	3.3
もっと指導員に関わってほしい	0	0.0
その他	9	15.0
無回答	2	3.3

教育支援センターや FS に求めることは、学習支援をもっとしてほしいが 18 人（30.0%）、個別で過ごすことができる部屋がほしい 17 人（28.3%）、進路について考えるため、もっと情報がほしい 17 人（28.3%）となっている。

その他の回答の中には、「送迎についての対応策がほしい。」、「教育支援センターには発達障害や精神疾患について理解して説明出来る方との連携や個別会議をきちんとしてほしい。」との意見があった。※その他の回答は付録

(サ)　家庭の経済状況等について

保護者の就労状況が変化したのは 35 人（58.3%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
変化があった	35	58.3
変化なし	24	40.0
無回答	1	1.7

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
遅刻・早退が増えた	12	34.3
休みがちになった	10	28.6
休職した	9	25.7
転職した	9	25.7
（正規から非正規など）雇用形態が変わった	3	8.6
その他	6	17.1
無回答	1	2.9

変化があった 35 人のうち、12 人（34.3%）が遅刻・早退が増えた、10 人（28.6%）が休みがちになった、9 人（25.7%）が休職した、同じく 9 人（25.7%）が転職したと答えた。

その他には、時間や仕事を調整した、退職したなどの回答があった。

収入に変化はなかったのは 35 人（58.3%）となっているが、収入が減ったのは 21 人（35.0%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
収入に変化はない	35	58.3
収入が減った	21	35.0
収入が増えた	1	1.7
無回答	3	5.0

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
食費	36	60.0
光熱水費	32	53.3
交通費や送迎費の燃料費	28	46.7
パソコンやタブレット等の学習端末購入費	11	18.3
教材購入費	8	13.3
FS等の民間団体の利用料	6	10.0
特にない	8	13.3
その他	4	6.7
無回答	2	3.3

増えた出費で最も多いのは、食費で 36 人（60.0%）、次いで、光熱水費 32 人（53.3%）交通費や送迎費の燃料費 28 人（46.7%）となっている。

補助制度等の利用状況は、補助制度等の該当なしが 38 人（63.3%）となっているが、児童扶養手当受給 10 人（16.7%）、就学援助受給 5 人（8.3%）、住民税非課税世帯 2 人（3.3%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
該当なし	38	63.3
児童扶養手当	10	16.7
就学援助	5	8.3
奨学給付金	4	6.7
住民税非課税	2	3.3
生活保護	0	0.0
無回答	6	10.0

(シ)　不登校に関することで、感じていることや考えていること＜保護者の回答＞

※全ての回答は付録

不登校支援を受けたくても支援が受けられるのは平日昼間が殆どのため、仕事が休める日数にも限りがあり十分な支援を受けることが難しいという意見、親の会に参加するようになって話を聞いてもらったり、共感してもらえたりしたことで、かなり救われたという意見、教員による不適切な指導により耐えられなくなった一定数の生徒が学校へ行けなくなると思うという意見、不登校になったことで感じたことなどの意見がありました。

(ス)　不登校になった理由＜子どもの回答＞

きっかけが何か自分でもよくわからないが最も多く 14 人（23.3%）、次いで、友達のこと（いやがらせやいじめ以外）13 人（21.7%）、先生のこと、身体の不調 11 人（18.3%）となっている。

また、複数回答したのは 35 人（58.3%）となっており、多くの人が複数の理由があり不登校になったことがわかる。

区分(複数回答あり)	回答数	割合(%)
友達のこと(いやがらせやいじめ以外)	13	21.7
先生のこと(合わない、怖い、体罰があったなど)	11	18.3
友達のこと(いやがらせやいじめ)	9	15.0
部活動の問題(合わなかった、部員とうまくいかなかった、試合や大会に出場できなかった、行きたくなかった、顧問や先輩が厳しかったなど)	9	15.0
行事に参加するのが嫌だった	8	13.3
勉強のこと(授業が分からない、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど)	7	11.7
学校のきまりなどの問題(校則が厳しかった、制服を着たくなかったなど)	7	11.7
入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった	7	11.7
SNS等のトラブル	2	3.3
上記以外の理由で学校生活と合わなかった	3	5.0
きっかけが何か自分でもよくわからない	14	23.3
身体の不調(学校に行こうとするとお腹がいたくなったり、頭が痛くなったりする)	11	18.3
学校に行く必要性が理解できず、行かなくてもいいと思った	8	13.3
朝起きることができない(起立性調節障害など)	6	10.0
親子のこと(親と仲が悪かった、親が怒った、注意されるのがいやだったなど)	4	6.7
インターネット、ゲーム、動画視聴、SNSの影響(一度始めると止められなかったなど)	4	6.7
特にきっかけはないと思う	4	6.7
親・親せきにたたかれたりなぐられたり、食事を与えられなかったりした	1	1.7
兄弟や姉妹に学校を休んでいる人がいて影響を受けた	1	1.7
家族関係(自分以外の家族同士の仲が悪かった、家族が失業した、家族が離れ離れになったなど)	0	0.0
家族の世話や家事が忙しかった	0	0.0
答えたくない	4	6.7
その他	5	8.3
無回答	8	13.3

(セ)　誰に相談したか＜子どもの回答＞

母親が 33 人（55.0%）で最も多くなっている。次いで、スクールカウンセラー9 人（15.0%）、医療関係者 9 人（15.0%）、SNS でつながった人 8 人（13.3%）となっている。

また、複数回答したのは 28 人（46.7%）となっており、子どもが相談できるところが限られていることがわかる。

区分(複数回答あり)	回答数	割合(%)
母親	33	55.0
スクールカウンセラー	9	15.0
医療関係者	9	15.0
SNSでつながった人	8	13.3
教育支援センターの職員	7	11.7
誰にも相談しなかった	7	11.7
担任の先生	6	10.0
父親	6	10.0
養護教諭	5	8.3
学校の友達	5	8.3
覚えていない	4	6.7
学校外のカウンセラー	3	5.0
父親・母親以外の家族・親せき(祖父母や兄弟姉妹、おじおば、いとこなど)	3	5.0
担任、養護教諭以外の学校の先生	2	3.3
塾や習い事の先生	1	1.7
学校外の友達	1	1.7
FS等民間団体の職員	0	0.0
電話やSNSの相談員	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	7	11.7

(ソ)　学校の対応で嫌だったこと＜子どもの回答＞　※その他の回答は付録

登校を促すような家族からの声かけが22人（36.7%）で最も多くなっている。学校からの連絡が多いことや先生やクラスメイトからの声かけが多いことを嫌に思う人の割合が高い。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
登校を促すような家族からの声かけ	22	36.7
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が多い	13	21.7
覚えていない	12	20.0
「学校においでよ」等の先生からの声かけが多い	9	15.0
自分の意思とは関係なく医療機関に連れていかれること	8	13.3
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が多い	7	11.7
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけや手紙が多い	5	8.3
学校からの連絡（家庭訪問や電話、手紙など）が少ない	2	3.3
学校以外の相談窓口に行くこと	2	3.3
学校による授業の補充（オンラインやプリントなど）が少ない	1	1.7
「学校においでよ」等の先生からの声かけが少ない	1	1.7
「学校においでよ」等のクラスメイトからの声かけや手紙が少ない	1	1.7
特になし	6	10.0
その他	2	3.3
無回答	7	11.7

(タ)　学校や教育支援センター、FS等に行っていない間の過ごし方

ゲームとテレビや動画等の視聴が45人（75.0%）で最も多くなっている。次いで、寝ている31人（51.7%）、SNS等での友達との交流16人（26.7%）、興味・関心があること（読書、ボランティア活動等）15人（25.0%）となっている。

塾や習い事、地域の公共施設の利用、カウンセリングや相談機関の利用、外遊びなど外とのつながりを持っている人もいる一方、特に何もしていないと答えている人が4人（6.7%）いる。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
ゲーム	45	75.0
テレビや動画等の視聴	45	75.0
寝ている	31	51.7
SNS等での友達との交流	16	26.7
興味・関心があること（読書、ボランティア活動等）	15	25.0
外遊び	9	15.0
オンライン教材や動画視聴による学習	6	10.0
カウンセリングや相談機関の利用	6	10.0
塾や習い事	5	8.3
特に何もしていない	4	6.7
放課後等デイサービスの利用	1	1.7
子ども食堂などの居場所の利用	1	1.7
地域の公共施設（公民館、児童館、図書館など）の利用	0	0.0
家庭教師やアウトリーチ活動（訪問型支援）等による来宅サポートの利用	0	0.0
その他	3	5.0
無回答	6	10.0

(チ)　学校に求めたいこと＜子どもの回答＞　※その他の回答は付録

安心して休める対応が20人（33.3%）で最も多くなっている。次いで、特になし19人（31.7%）、校内教育支援センターの設置10人（16.7%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
安心して休める対応	20	33.3
教室に入りづらい子どもの居場所（校内教育支援センター）の設置	10	16.7
学校に戻りやすくするための支援 （同級生との関係づくり、活動時間をずらすなどの工夫等）	8	13.3
気軽に相談できるようにしてほしい	7	11.7
中心となって不登校支援をする先生がわかるようにしてほしい	7	11.7
ICTを活用した学習の出席扱い	6	10.0
オンデマンド（ビデオ教材等）による授業の受講	5	8.3
学校との連絡や連携を子どもや保護者の状況に応じてしてほしい	3	5.0
オンラインによる授業の受講	3	5.0
進路情報の提供	2	3.3
訪問型支援（スクールカウンセラーによる家庭訪問等）	0	0.0
特になし	19	31.7
その他	1	1.7
無回答	8	13.3

(ツ)　三重県に求めたいこと＜子どもの回答＞　※その他の回答は付録

特になしが 23 人（38.3%）で最も多くなっている。次いで、学びの多様化学校の設置が 17 人（28.3%）、学校以外の子どもたちの居場所づくり 11 人（18.3%）となっている。

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
学びの多様化学校（不登校の子どもが通いやすい学校）の設置	17	28.3
学校以外の子どもたちの居場所づくり	11	18.3
様々な相談先やFSなどの情報提供	7	11.7
いつもスクールカウンセラーがいる	4	6.7
FS等民間団体の利用料金の補助	2	3.3
特になし	23	38.3
その他	2	3.3
無回答	10	16.7

(テ)　教育支援センターや FS の利用について

どちらも利用してないが 28 人（46.7%）、教育支援センターを利用が 19 人（31.7%）となっている。

区分	回答数	割合（%）
どちらも利用してない	28	46.7
教育支援センターを利用	19	31.7
フリースクールを利用	5	8.3
どちらも利用	2	3.3
無回答	6	10.0

区分（複数回答あり）	回答数	割合（%）
このままでいい	15	25.0
個別で過ごすことができる部屋がほしい	13	21.7
もっと体験活動（創作活動、軽スポーツ、野外活動など）を計画してほしい	9	15.0
無理にカウンセリングを勧めないでほしい	6	10.0
施設や設備を充実してほしい（十分な活動場所の確保）	6	10.0
学習支援をもっとしてほしい	5	8.3
図書館や美術館、博物館など、外の施設を利用してほしい	3	5.0
在籍している学校と連携してほしい	3	5.0
カウンセリングを受けたい（もっと受けたい）	2	3.3
進路について考えるため、もっと情報がほしい	2	3.3
利用料を安くしてほしい	2	3.3
友達と関わる時間を増やしてほしい	2	3.3
指導員は関わりすぎずに少し放っておいてほしい	1	1.7
食事を提供してほしい	1	1.7
利用するFS以外の子どもと交流する機会をもってほしい	0	0.0
もっと指導員に関わってほしい	0	0.0
その他	3	5.0
無回答	14	23.3

教育支援センターや FS に求めることは、このままでいいが 15 人（25.0%）、個別で過ごすことができる部屋がほしい 13 人（21.7%）となっている。

その他の回答の中には、送迎してほしいとの意見があった。

(ナ)　不登校に関することで、感じていることや考えていること＜子どもの回答＞

※全ての回答は付録

将来を不安に感じているという意見や当時の心境や原因についての回答、学校が行き続けられる場所であってほしいと願う意見がありました。

第３章　調査結果からの考察

1．調査結果のまとめ

①　県教育委員会が把握しているFSへの調査から

FSはこの10年間で17団体が設立されている。66.7%の団体が常勤のスタッフが1～2名の体制で運営している。また、週当たりの開所日数が1日という団体もあり、活動の状況はFSによって大きく異なっている。活動の内容としては、個別の学習や相談・カウンセリングを行う団体が多く、体験活動を中心に取り組んでいる団体もある。

学校との連携については、教育機会確保法の施行もあり、多くのFSが行っている。定期的に文書や電話でやりとりをしている団体が多い。

運営上の課題としては、収入が不安定であることやFS事業単独で収益を出すことができない状況にあり、利用者が増えてもスタッフを増員することが難しいという団体が多い。運営費の支援や利用者の経済的支援を求める声が多くあった。

②　FSを利用する児童生徒及び保護者への調査から

不登校になった理由として多かった項目は、保護者と子どもの両方とも「身体の不調」、「先生のこと」、「勉強のこと」となっている。「きっかけがわからない」との回答も保護者14%ほど、子ども20%ほどあり、身近な大人も本人でさえも理由がわからないことがある。相談先としては、保護者が担任の先生、子どもが母親に相談することが最も多くなっている。また、保護者は複数のところに相談しているが子どもはあまり複数のところに相談できていない。

学校に相談するときに教員が忙しく、なかなか話を聞いてもらうことができなかったという意見が複数あった。学校に求めたいこととして、安心して休める対応や校内教育支援センターの設置等の意見が多かったが、多様な支援を求める声が多かった。教員や社会が不登校の理解を深め、支援や対応ができるようになって欲しいと願う意見も多くあった。

FSを利用するには利用料や交通費がかかることから、経済的支援を求める声が多くあった。また、子どもが不登校となることによって、保護者の就労状況に変化のあった家庭が50.0%、収入が減った家庭は34.8%となっている。さらに、FSの利用料はもとより、交通費や送迎費、食費、光熱水費も増えることがわかった。

③　5年以内で不登校の親の会に参加した保護者及びその子どもへの調査から

不登校になった理由の子どもの回答では、「きっかけが何か自分でもよくわからない」、「特にきっかけはないと思う」が合わせて18人（30.0%）となっており、本人も不登校の要因はわかりにくいことであるとわかる。不登校になった理由では、保護者と子どもの両方とも「友達のこと（いやがらせやいじめ以外）」、「先生のこと」、「身体の不調」が多くなっている。誰に相談したかの保護者の回答数が回答者数の6.2倍となっており、FS利用者保護者（4.7倍）よりも多くなっている。

保護者の就労状況に変化のあった家庭は58.3%、収入が減った家庭は35.0%となっており、FS利用者の調査と同等の結果となった。

教育支援センターやFSの利用状況として、どちらも利用していないのは45%ほどあり、ゲームや動画等の視聴、寝て過ごしていることが多かった。塾や習い事、外遊び、地域の公共施設の利用などの項目を選択したのは36.7%となっており、FS利用者45.7%より少ない傾向がみられた。

2. 課題

FS の中には１人で運営しているところもあり、安全性や支援の質を高めたいと考えている団体はあるが、スタッフを増員するには運営経費がかかるため進められていない。また、悩みを抱える子どもの対応ができる資質を有した人材を見つけることや育成することは難しい。

校内教育支援センターや学びの多様化学校の設置については、子どもと保護者の両方ともニーズがある。県教育委員会でも設置に向けて進めているところだが、子どもや保護者に寄り添って対応することのできる人的配置が課題となっている。

学校内外の機関等で相談や指導を受けていない不登校児童生徒がいることから、一人ひとりの状況に応じた支援体制が整備されていく必要がある。

3. 考察

小中学校の不登校児童生徒がこの 10 年間で２倍以上（三重県公立小中学校で令和４年度 3,845 人）となったこともあり、教育支援センターや FS の必要性が高まっている。公的な施設である教育支援センターは県内 21 施設となり、県内のすべての地域で利用することができる。しかし、様々な理由で教育支援センターに通うことができない児童生徒もいることから、その児童生徒に合った FS は多様な学びの場の一つとして重要な選択肢となっている。

三重県内の FS は、県教育委員会が把握している団体として令和６年９月末で 21 団体ある。まずは、これらの団体の情報が不登校児童生徒やその保護者に届くように努める必要がある。教育支援センターを含めて FS 等の学校以外の選択肢を伝えてもらえなかったとの意見があった。三重県として、不登校児童生徒が継続して学ぶことのできる FS 等の情報発信や子どもの意思を尊重した対応が行われるよう教職員に働きかける必要がある。また、すべての FS が不登校児童生徒の学びを継続する場となり、安全性や支援の質を高めることができるように取組を進めていくことが効果的であると考える。

不登校となった子どもたちが継続して学ぶことのできるように、令和６年度から利用者に対する経済的支援を実施する。しかし、経済的に苦しい状況にある家庭への支援としているため、利用状況や子どもたちの学びが継続されていくのかを確認しながら、対象について検討する必要がある。

登校できるがクラスに入ることのできない児童生徒が校内で学びを継続できる教室として校内教育支援センターの設置が期待されているが、そこで児童生徒を支援する人材が重要であり、寄り添って対応してもらうことのできるように進めていく必要がある。

付録　個別意見

本調査の趣旨から、特定の団体名や個人がわかる記載等については表現を変えています。

1．県教育委員会が把握しているFSへの調査

①　運営しているなかでの財務上の課題

- 他の事業から持ち出しをしている状態です。
- 継続率が低いと赤字になってしまうこと。
- 保護者の経済的負担はいつも心配です。
- 授業料が収入源ですが、１人親家庭等の経済的負担も考えて、授業料を極力少なくしています。公的支援は得ておりません。経費などはかかりますが、現在は無給で活動を行っています。授業料からの収入よりも、運営費や活動費の方が多くなることも多く、赤字経営になっているので財務上は課題も多いです。
- 人材を雇うお金がないので１人運営ですが、財務面は課題も多いです。
- 補助金などもあればありがたいですが、逆に公的なお金の扱いの難しさも感じており、依存しない無理のないやり方で、うまく経済的に自立することができないか、収益面をもたらす価値を創造することができないかも模索しています。
- 収入が不安定で継続的な寄付を集めることが難しい。
- 講師、スタッフの賃金のアップが前年度からできていない。
- 収入の主なものは、自治体からの補助金であり、人件費と家賃、光熱水費、消耗品費の一部である。
- 人件費は、児童生徒が来た時のみで、利用時間の実績ベースであるため、休んで来なかったときや待機してもらっている間は無給の状態になっている。
- 安定的に収入が見込めないので助成金の申請や、同法人が運営している学習支援塾と消耗品は併用している。指導者が足りない時には法人の職員も入っている。利用者から利用料を徴収することも考えたが、利用の際のハードルとなるのは明らかで、家族も含めて支援が必要な家庭に届けられるようにするため、今は行っていない。
- 施設管理費の助成金が少ない。
- 毎日開所したくても人件費が出せないため、週２しか開けることができない。
- 資金がないので、長期的にできるかどうか、常に綱渡りの状態となっている。
- 家賃支出の関係で広い場所を借りることができず、受け入れ人数に限界がある。
- 受益者負担だけでは、到底人件費を賄うことができず、赤字事業です。
- 赤字事業ですが、当団体に参加している子どもたちは繊細でこだわりの強い子が多く、もしも当団体がなくなってしまうと行く所がなくなってしまい、ひきこもる可能性が高いこと、また、義務教育中の子どもたちであるという社会的使命感から運営しております。
- 子どもたちの社会的自立をめざして運営しており、子どもたちが安心して過ごす中で自己肯定感が高まり、学校に復帰できるようになるのは嬉しいことである反面、収入が減ってしまうという現実があります。また、困窮ひとり親家庭に対して受益者負担を求めると、子どもが当団体に来られなくなってしまうため、チラシには半額と発信しておりますが、実際は無料で受け入れております。
- 適正な人件費の確保が難しい。
- 利用者の財政的負担を考慮し、発達支援の福祉受給対象者としているので、費用の負

担は少ない。

- ほぼ、全額利用者負担になっている中で、運営者の収入が公務員や教員と比較にならないほど少ない。（時給に換算すると 300 円程度）。
- 子どもたちの送迎をしているが、運営者の自家用車を利用している。
- 人件費や消耗品等を利用料で補填することは出来ない。母団体からの支援で賄っているのが現状である。経営上、大変難しい。
- やっていることは放課後等デイサービスに近い内容もあるが月謝を高く設定しにくいし、補助金を求める方法もない。
- 利用者があるかどうかわからない状況で収入が安定しないので人件費を捻出できない。
- 授業料の収入のみでは、運営が困難である。
- 寄付が 22%を占めているが、篤志の方から頂戴している。私は高齢のため、先々を考えると助成金等をいただけるような取組が必要だと思う。

② 運営しているなかでの体制についての課題

- 「進路」を中心軸に据えた形式なので、勉強や学力が中心となっている。医療機関との連携や手紙のやり取りはできているが、学校単位で対応が異なるので、円滑に連携することが課題。
- 学校との連携をとるフォーマットがあれば、より早急に児童を社会復帰させることが可能だと感じます。フォーマット通りでなくても、それをベースに学校とやりとりができればいいと思います。現在は、学校ごとに手探りでコミュニケーションをとっていますので、連携を取り始める時が特に大変です。
- 特にありません。人件費がかかるので、すべてスタッフが業務委託です。
- 市内に FS が一つしかないので、遠方の児童生徒には通学しにくく、保護者負担が大きいと思われます。
- 現在は FS から、フリースペースに変更し、教育的な側面よりも、自由な居場所としての場を重視しています。

  FS を行っていた時は、学校への出席として認めていただいていたため、各それぞれの学校と、教育委員会と月１回訪問で連携をとっていました。教育委員会の職員の皆様には色々と助言もいただき感謝しています。

  FS を行っていたときも１人運営だったので、各機関との連携や、ボランティアさんとのやり取りなど忙しさは課題でした。

  自分がやれる範囲のペースで運営することを大事にしているので、１人で対応できる範囲の人数を対応させてただいています。

  １人での運営なので、フリースペースへの入所希望があっても、見られる人数に限界があるので、そこは課題に感じています。
- 少人数なので深い関わりもできるので、来てくださる方は満足してくれているかなと感じているのですが、その分、安全面の配慮をはじめ、１人１人が自分を出せるよう、場の空気づくりや、その他の雑務などなかなか体力・精神面と運営のバランスが大変だと感じています。
- 年々生徒の抱える問題が多種多様に増えており、問題解決に際し対応できないケースが増えている。

- 学習室（個別学習用）と高校の講師を増やせれば、居場所に通いながら通信制高校の学習ができる子どもの受け入れ人数を増やすことができる。
- 常勤、非常勤のスタッフを増やしたい。
- 財政上は決して十分ではない状態であるが、スタッフとなってくれている先生のボランティア精神で人的には十分な体制を組むことができている。
- 教員免許保持者や教員経験者や福祉的な資格を持つ者もいるため、不登校以外にも子どもの支援、保護者や家族の支援にもつながっている。福祉と教育の多機関で連携していけるようになるとよい。
- 同法人で学習支援も運営しており、こちらは法人の独自事業(民間の助成金等の活用)である。FS の児童が学習支援も併用して利用している。通常は学校に行けているが行き渋り傾向のある子どもや発達相談からの子どもたちも、少人数の学習支援の場に来ているが、不登校になるリスクも高いと思われる。FS においても個別の支援が求められるケースも散見されるため、地域の教育支援センターとも連携している。
- 不登校児の現状を把握しながらの居場所とその運営を考えていくこと、FS の良さを生かしつつ何とか継続していくことが課題となっている。
- いざ、学校に戻りたいと思っていても、勉強が追いついておらず、戻れない子もいる。もう少し学校と連携を取りたいと思うが、住んでいる市によってもずいぶん対応に差があると感じている。確かに FS でもいいじゃないか、という風潮になっているのもわかるが、FS のノウハウがないのにも関わらず、安易に FS 化もできない。学校の中に戻りやすい場所があると、連携を取りつつ、戻れるのではないかと思う。
- 発達の特性による集団不適応児童生徒を対象とするので、それが明確にならない場合には、人件費が創出できない。
- 財務上の理由から、職員を雇用することができない。
- 一人ひとりへのきめ細やかな支援のために、さらに職員を必要としてはいるものの、経営上、職員を増やすことは出来ない。
- 賃金を払う余裕がないので、人を雇うことはできない。
- 個別指導が必要な児童生徒ばかりなので、同時間に指導する場合指導者が足りない。
- ２人目の常勤を採用したいが、現時点の売り上げでは難しい。
- 小中学校の児童生徒のニーズがどのように変化していくかわからない状況である。子ども一人ひとりに適切な対応が求められるので、相談支援が必須ととらえるとともに、学校職員との連携が不可欠であるが、情報が断片的で継続性にも欠けており、子どもにとってどのような居場所にしていくかを模索しにくい現状がある。

③ 運営しているなかでの人材についての課題

- 特にありません。直接雇用ではなく、すべてのスタッフが業務委託です。
- 学校に行き辛さを感じている子どもの理解に課題を感じている。
- 人材については、１人で運営しているため、ボランティアさんにお力を借りています。課題としては生徒同士の相性や、ボランティアさんと生徒との相性があることもやってみて分かりました。
- ボランティアを希望してくださる方が多いことは、ありがたいことでしたが、性格などの相性のバランスも求められるため、そのあたりの採用の難しさもやってみて感じました。

- 子どもの中には人見知りをしたり、ADHD など関わりの難しい生徒もいるため、ボランティアさんとの相性が悪いと、態度に出たりパニック発作を起こすこともあったので、その子の「性格のタイプ」がどんなものかや発達障がい、子どもたちの抱えている課題への理解が、まずは必要だと感じています。
- FS をしていたときは、学校や市によって出席扱いも条件があり、スーパーバイザーさんや臨床心理士さんに入っていただく必要があり、入っていただきましたが、生徒との相性が悪い時もあり、生徒がパニック発作になることがありました。単に教員免許や心理資格の「ある」「ない」に関わらず、単純な性格の相性などもあるため、人間関係の難しさは感じます。ただ、そういった経験も、話し合ったり、考える場を持ったり、生徒の気づきや成長に必要な経験にもなるので、必ずしも悪いわけではないのですが。
- 少人数のコミュニティだからこそ、生徒のタイプの把握や理解、生徒とスタッフとの相性の部分は重要になってくるかなと感じています。
- 様々な分野の職員を採用するため、常識の違いに戸惑う場面が多くある。
- スタッフが育つには時間が必要だが、それまでの人件費の工面が難しい。
- 人材は確保できている。今は、ボランタリーな部分もお願いはできているが、利用中の生徒がいるが、来るかどうかわからない日に待機してもらっている間の人件費も確保したい。
- 福祉の専門人材と事務員が欲しい。
- 財政上、人材を雇えないため、年齢別に開所したいとか週２以上開所したくてもできない。
- 教員経験者を配したいと思っておりますが、人件費が最低賃金しか払えないため、採用はかなり難しいと感じております。無料学習塾を週１回開催しており、そこには教員経験者や教員志望のボランティアスタッフが登録しております。
- 教員不在であるため学科学習の支援は手薄である。
- 子どもたちの支援・指導に、堪能な職員を配置するのが難しい状況である。
- 様々な問題や悩みを抱えている児童生徒とうまく関わっていける資質のある人を見つけることは簡単ではない。
- 教員経験がある方からの応募が多いが、学校色が強く、不登校の生徒にとってはあまり心地のよいかかわりでない場合もある。
- 指導者は、教員免許を有しているか、教職経験者としているため、高齢の教職経験者が多い現状である。継続性を考えると退職した教職経験者で指導者をしていただける人を常時探す必要がある。

④ 運営しているなかでの事業についての課題

- 会員の継続：意欲の醸成、学習や課外活動の継続、コミュニティへの参加をオンラインでどこまで促すことができるか。
- 私は退職しての年金生活者ですので何とかできますが、若い人が生活設計を立てて運営するとなると難しいと思います。
- 事業についての課題については、まずは、生徒たちの多様な興味、関心に合わせてそのニーズに合わせて内容を設定していくことの難しさがあります。生徒と１日をどう過ごすか話しあったり、企画をしたり、その都度、来ている子達に合わせて工夫して

います。保護者さんには、FSや、フリースペースのあり方について多くのご理解を頂いてきたなと感じています。

事業についての課題として、２点目は、外からの学びの成果を評価する基準が図りにくい点があるかなと感じます。これまでの学校のような国の評価基準とは異なるアプローチを取るため、どうしてもその評価基準が図りにくい点は課題だと思います。FSはその独自性が生徒に好まれることがありますが、それが国の定めた基準には合っていないこともあるため、公的な評価・審査とのすり合わせの難しさは課題だと感じます。自由な場がすべての子に良いわけではないですし、１人１人が何を求めているのか、何を必要としているのか考えながら悩みながら運営しています。

- 生徒数が増え、運営できるだけのスペースを確保することが困難なケースがある。
- 県教委以外の行政との連携が見えません。当事者のような孤立感があります。各市町との情報共有と連携や福祉との連携の必要性を感じている。
- 現在、本法人のFSでは、気持ちの安定ややりたいと思うことができることで前向きになれるよう、支援しており、居場所としての意味合いが強くなっているが、学習についてもスケジュールを組んでいかなくてはならないと思うが、個別の対応への助言をいただきたい。
- 見学には来ても入会には至らないことが多い。潜在的に不登校児は多いけれども、自宅から出ようとしない子どもがたくさんいる。宣伝する術がない。子どもの学習や成長についてノウハウがないにも関わらず、無責任にFS化することはできない。中学生の見学者もいるし、困っている話も聞くのだが、現状、小学生がワイワイしている中に中学生は入りにくい現状がある。中学部門を作りたいが、人を雇うお金も部屋もなく、受け入れられない。
- 他県では、県がFS、基礎自治体が不登校の保護者に対し、補助を出しております。
- 義務教育中の子どもたちの教育支援であり、三重県ではひきこもりの25%は不登校に由来しているというデータもあることから、FSの運営費に対し、県の補助を求めます。
- 運営についての定収入が見込めなければ、定時業とはできない。
- 不登校である児童生徒は大勢いるものの、FSに足を運ぶ子どもたちの数が、大変少ない。
- 保護者の経済的な負担をなるべく減らしたい、もしくは「なし」にしたいと思っています。しかし、事業を進めていけば持ち出しの部分が多く、継続していくのに経済的な負担が大きい。
- 教育支援センターの分校のような形になればいいのにと思います。
- 私自身が年齢的に継続していくことが難しくなってきているので、やがてこの施設を閉じることになると思うが、対象生徒たちのことを思うとなかなか区切りがつけにくい。
- 通学型のため、そもそも外に出られない子たちへの支援が課題である。（生徒によっては家庭訪問も実施はしているが。）
- 居場所としてのフリースペースでは、子どもの特性に応じた取り組みが大切と考えているが、施設の狭さもあり、コミュニケーション力などの社会性を学ばせることが難しい状況がある。一人ひとり個性が異なる子どもたちに、個々に対応することの大切さを担保しながら、集う子どもたちが共有できる活動を模索していきたい。

⑤ 運営しているなかでの施設・設備についての課題

- 児童がその学校で使っている教材があると、大変助かります。特にワークは教科書と違い書店での購入もできませんので、それがあると児童の学校復帰は早まると思います。
- 通所施設がないので、課題はありませんが、東京都の研究事業の協力金は、通所施設でないと要件を満たさないようなので、その部分は残念です。
- 母団体が相談にのってくれているので、特にありません。
- 理想の場所を探していましたが、なかなか良い物件がなく、現在は、家の隣の空いている小屋を利用しています。駅から遠いため、車で生徒の送り迎えをしています。この辺りも対応できる人数に限りがあるため課題になります。

  また、調理場がないため、カセットコンロで代用していますが、料理などできる場があると良いなと思っています。公的な場所をお借りようとしていた時期もあるのですが、こちらも活動拠点としていく場合、やはり使用基準や条件などもあるため、扱いの難しさもあるなと感じました。体育館などもお借り頂ける機会があると、子どもたちの活動の幅も広がるなと感じています。
- 音楽、美術・工作が日常的にできる環境や卓球などのできるスペース、調理のできるスペース・施設を希望する。
- 体を動かすことのできる場所があるとよい。体験的な学習の機会も確保していきたい。
- 部屋が一つしかないため、クールダウンのための部屋や学習用の部屋など分けて使えない。部屋があれば、中学生など年齢別に受け入れることもできるのにと思う。
- 毎月の家賃が重荷となっています。
- 学科学習を支援する体制として教科書は必須であるが自費購入は高額で対応できない。
- 子どもたちの様々なニーズに対応するための、施設・備品等が経営上限られているため、活動が制約されることがある。
- 老朽化してきているが、リフォームする余裕はない。また最近の子どもは清潔で新しい設備を求めるが、それに対応することも難しい。
- なるべく支出を減らすために、空き部屋を利用しています。古民家、畳に座しての学習スタイルをとっていますので、子どもたちは大変かとおもいます。庭に出て遊ぶこともできますが、見守る人がいないので室内でのゲームにとどまっている現状です。
- 様々な特性のある生徒を受け入れているが、個室などが用意できず、過ごしにくくなる生徒が出てきている点。
- 個々の特性に応じた指導には静かに学ぶ場所が必要であり、社会性を学ぶには、適切な数で集える場所がほしい。

2. FS を利用する児童生徒及び保護者への調査

① お子様が学校に行かなくて不安になったことの保護者の回答でその他の内容

- 不安はなかったですが、元気のない姿を見ていて辛かった。私の妹が中学生の頃不登校でしたが、親が妹を信じてそっと見守る姿を見ていたので、不安はありませんでした。

・　学校へ行かないときの過ごし方。
・　テストをまとめてもらってきて漢字以外は８割ほど理解してるのでFSのおかげだと感謝しています。ただ、集団生活をしていないので、就職のときの不利や私が死んでから１人で生きていけるのか不安です。
・　はじめの頃は、休むと父親に怒られていたこと。

② お子様が学校を休んでいる間の学校の対応で困ったことの保護者の回答でその他の内容
・　こちらの思いを理解して下さり、素晴らしい対応をして頂いています。感謝しかありません。
・　登校できないと伝えたところ、「そうですか」の一言で永遠の別れのように対応された。プリントなど教材や情報が登校状態と変わらない物がもらえると思っていたが、それもこちらから言わないともらえず、「何が要りますか」と聞かれて驚いた。
・　学校に来てねと言われるばかりで、その裏返しとしては学校に行かない子はダメな子というふうに言われているように感じた。毎日のように学校に来るように促されたことに一番気が滅入った。子どもが学校に行かなくなったときに、学校に行かせない親が悪いと言われているような気がした。
・　今では、先生も理解してくださるのでいいのですが、それまでは、プレッシャーでしかなかった。私も学校行ってほしくて心療内科で薬漬けにして子どもに申し訳なかったと思う。健康第一なので子どもに登校ペースは任せようと思う。
・　とても良くして頂いた先生もいましたが、不登校は親が悪いと言い放つ様な先生の時は参った。
・　学校への欠席連絡がとても辛かった。
・　どのように対応したらいいか共に考えてもらえる事がなかった。
・　PTAの委員を決める会に出席することが非常に苦痛でした。
・　精一杯してもらいましたが、担任の先生が忙しそうで声をかけづらいなと思いました。
・　あまり相談にのってくれなかったこと。
・　いじめ対象者との話し合い場面における不適切な対応。
・　先生たちが忙しそうで不登校の子まで手が回らない様子があり、最初の頃話す時間が欲しいと頼んでもなかなか対応してもらえなかった。
・　なかなか理解してもらえない。子どもの性格のせいのような言い方もあった。

③ 学校に求めたいことの保護者の回答でその他の内容
・　特に、不登校担当の窓口になる先生をはっきりさせることとそれぞれの子どもに合った対応と一人ではなくチームで対応していただきたいです。
・　人手がいないとよく言われたので、困ったときに対応できる先生をおいてほしい。
・　学校は何のために通うのか。大人の視点からではなく、生徒の視点から考えて欲しい。生徒の立場になった学校を作れば、今のような学校にはならないはず。今までの常識は今の生徒たちには通用しない。勉強も必要だろう。
　しかし、何のために勉強するか何のためにそれが必要なのか、それをちゃんと理解させずに勉強させる事は子どもたちの意志を踏みにじり学ぶ意思を阻害する行為である。生徒たちの立場になって、生徒たちが本当に必要としていること行って欲しい。

- 生徒や先生など学校全体で権利を伝えてほしい。
- 年度の途中でも他のクラスに変われるようにしてほしい。
- 子どもに応じて、対応はバラバラです。この内容に関して、選択できるのが３つとなっているこのアンケートが理解できません。
- FS に通っている日を欠席扱いにしないで欲しい。
- FS を通学と認めて定期など学生定期にして欲しい。
- 安心して学校生活が送れるようにしてほしい。支援級なのでその子に応じた対応や支援をしてほしい。支援に詳しい方に学校での様子を見て、どのような対応をするといいかなど、いい方法が聞けても学校側が取り入れようとしない姿勢なので、何も変わらないので、変えようとしてほしい。
- 科学的な心理分析をしてくれる機関が欲しいので、学校はその情報を把握し支援して欲しい。
- 学校以外の居場所について知らせてほしい。学校に来るように言われるばかりで、学校に行かない選択のあり方について認める発言がなかった。学校に行かない場合どのような過ごし方があるのかという具体的なアドバイスがほしい。
- 世間に対してですが、「不登校＝不幸」とか「不登校＝悪」という偏見をなくしてほしい。大人でもリモートワーク、転職あるのですから普通の小学校以外の学びとかホームエデュケーションなどいろいろな学びがあるのを周知させてほしい。
- 組織や教員の知識や対応力向上。

④ 三重県に求めたいことの保護者の回答でその他の内容

- 困っている子どもや親の対応がいつもできるように、専門の先生が常時いるようにしてもらえるといいと思います。人手不足でと言っている事が多かったです。
- 各学校への１人以上のアドボケイト配属。
- 行かない学校に籍を置かなければいけないのは苦痛です。対応できない中途半端な支援教室を作るより、草潤中学のような所を作ってほしい。向き合える人がいる所に籍を置きたい。FS に籍を置けるならその方がいい。
- 授業についていけない、教室の雰囲気で集中できないなどの子のための別室授業や補助の先生をつけてサポートする。
- 教師のサポーターとして、すべての子どもたちに適切な発達支援、助言ができる専門家を配置する費用の確保。
- 教員の負担がさまざまな面において大きすぎる、包括的抜本的な働き方改革と生徒に真に寄り添えるあらゆる余裕。

⑤ 利用する FS に望むことの保護者の回答でその他の内容

- カリキュラムなど中身は子どもの状況に合わせてその都度改善していけると思うが、建物をもう少し大きくして個別対応できる部屋や外で遊べる環境や調理、スポーツなどに取り組める設備がほしい。
- 保護者会をしていただいたり、子どもの様子もよく見ていただいたりしているので、特にありません。
- 石油ストーブなどが危なく感じるので暖房設備を整えて頂きたいです。スタッフの数が足りていないように感じるので国や県が補助を出していただいて十分な体制を整え

て頂きたいです。

- 今のFSには通信制高校もあるので、そのままそこに通うことになることもあるので、その通信制高校卒業後の就職実績や進学実績など知りたい。

⑥ 不登校に関することで、感じていることや考えていること＜保護者の回答＞

- 小学生は学校に行かない選択をした場合、他に行く場所がない。三重県にはFSもまだまだ少ない。もっとたくさんできて選択肢が増えると良いと思う。個人が運営しているFSは、どうしても利用料が高いので、助成金などあるともっと通いやすいと思う。他の県では助成金がおりている県がいくつかある。三重県でも是非お願いしたい。
- 子どもは勉強面で不登校になりましたが、軽度の発達障がいがあることがわかりました。そのような子が不登校になるケースが多いことを知り、少しでもそのような子達が生きやすい学校が増えてくれたらと思います。
- 近くにはないので電車で通っています。本人は楽しんでいますが、やはり遠くへ通っているため疲れも出てきます。近くにFSあればとは思います。あとはFSの利用料金が高いので援助して欲しいです。
- 不登校の子どもが増えている事態に対して対応が遅すぎる。世界に、目を向けて教育を見直し実践してほしい。
- 一番初めは、別のFSに通いましたが合わなかったので探したところ、今の利用団体をみつけました。自然豊かな所で自然と触れ合い、色々体験させて頂きました。先生がガツガツせず、穏やかに寄り添い、楽しんでくれています。こんなFSが、たくさん出来ればと思います。おかげで、学校も親友と呼べる友達もでき、心を癒やしたいと思う時、月1の参加でリフレッシュして元気になっています。今年から高校生となるため、後一回の参加しかできませんが、進むべき道、進みたい道へと頑張っています。
- 小学校でのスクールカウンセラーによるカウンセリングを受けましたが、こちら側ばかりが嫌なことをされた時の回避の仕方を勉強させられ、よくない事をした子へのカウンセリングがないのがおかしいと思います。アメリカでは、嫌がらせや虐めた子の方がカウンセリングを受けさせられる事もあると聞きました。

  結局、塾の恩師や利用団体さんの先生に助けられました。普段の子どもを知っている方でなければ、心を開かせるのはなかなか出来ないと思いますし、やはり、本人がこの人なら信頼できると思った人達でなければいけないのかなと思います。
- 子どもたちにも、自由意志がある。その自由意志を踏みにじってはいけない。子どもたちが本当に必要としている事は何か。彼らの声に耳を傾けなければ、それを知ることはできない。不登校になるにはそれなりの理由がある。学校に行かせることが解決法とは限らない。それでも、人間として生きていくには、お金を稼がなければいけないので、最低限の知識は持っておいて、それ以外は、子どもたちの意思に任せるべきだと思う。
- 情報が少ない。不登校になった児童に対しての学校側対応を見直して欲しい。
- ギフテッドや2Eの認知が広まり、理解と配慮が欲しい。
- 不登校とひきこもりを同じにして欲しくない。不登校だから外出を控えるなどの考え方の人が多いとひきこもりの子どもを作ってしまうと思うので、学校側も他保護者も

習い事や遊びに行く事を否定しない環境が欲しいと思いました。

- 不登校はマイナスイメージですが、むしろ「行かない」と決めていることは子どもの決断でポジティブに考える方がいい。不登校の定義が欠席日数で決まるものではないようにして欲しい。学ぶ場所は子ども自身が決めるため、選択肢を提供して子どもが学びやすい環境を創っていくことが、社会全体の課題だと思います。
- ずっと家にいて、好きなことはさせていますが、これからのことを思うと、家から出てどこかに通う。学習のことは少し不安でしたが、療育や別室登校が少しできているので、前よりはいい方向に進んでいると思っています。
- ただでさえ、不登校という心理的負担が大きいのに、金銭的にも高校の学費が通信制(利用施設)学校の方針や授業内容など、とても魅力的だが経済的に負担が大きすぎる。年間 100 万以上かかるため、補助金を世帯収入 2000 万以下の世帯とか控除枠の拡大や補助金を充実してほしい。未来を担う子ども達のために。
- 学力の低下で高校進学への不安。集団生活が難しい為、人間関係や将来への不安。
- 毎日体調と気持ち不安などで、登校できるかできないか分からないので、送迎を待機しないといけないのが少ししんどく思う。
- FS にお世話になっている息子の兄も不登校です。兄は FS などへ行かない選択をして、だいたい家にいて、放課後に友達が家に来てくれます。不登校といっても色々なタイプがあり、FS に行っている弟は、とても合っているみたいです。とても楽しそうで、行けて良かったと思います。２人の息子を見て思うのは、私自身小学校の時にいじめにあったにも関わらず、親にも話さずに学校を休むことはなかった。

  だから、ある意味すごい勇気のある選択をしたなぁと感心しています。そう思う反面、学校へ行ってほしいとも何度も思いましたが、それは言わずにいたつもりです。いまはエネルギーを溜める時なんだと自分に言い聞かせながら、今日まで来ました。２人とも進路を自分で決め、だいぶ気持ちが軽くなったような感じです。

  不登校にはなりましたが、おかげで自分のことがよく分かるようになったようで、自分にあった進路先を見つけることができました。親として、何も助けてあげられなかったように思いますが、家庭は居心地のいいように、変わらずにしてきたつもりです。色々あったことも、２人の人生において意味のあったことなんだと思います。学校へ行けなくても、居場所があれば大丈夫です。
- アンケートの内容が答え辛かった。現在通信制高校２年目の息子は、小学６年生から中学３年まで不登校でした。その間の事は、アンケートの選択肢に応える…というより、どういう経緯があって、現在の状況がどういうもので、行政のどういった支援があると助かる…というふうに、個々の状況を知る事から考えて頂きたい。子どもが幸せな人生を歩むためにどう向き合っていくべきか、一緒に考えていただけたら幸いです。
- 行かなかった事で、人生に響くことはない。
- 不登校になる理由は子どもによって違いますが、本人が思っていること、感じていることを表現する場が必要だと感じます。うちの場合は、SNS で知り合った方々から良い影響を受け、自分の思っていることや感じていることを発信できたことが良かったと思っています。その反面、SNS は怖い部分もある為、注意が必要だと思います。高校から登校できるようになり、今は大学受験を頑張っています。当時は大変でしたが、今となっては必要な時間だったと思っています。悲観的になるより、その時間を

どう過ごそうかと親子で考えることも大切かと思います。FS では、保護者の思いを聞いてもらえるのも有難かったです。共感してもらえる人がいるだけで心強かったです。

- 子どもの為の教育って何だろう。彼等の好奇心や活き活き生きる力を伸ばしたい。抑圧や机上の空論ではなく、自分でやりたい事にチャレンジ、トライして何度も失敗して学んでいく。FS や多様な学びの場が少しずつ増えていると感じている。
- 小学校で担任と子どもが合わなかった場合、ほとんどの教科を担任が受け持つので逃げ場がない。不登校になってしまった場合、別のクラスに在籍変更できるように臨機応変に対応してほしい。自宅でオンライン授業を受けることはすぐに対応してくれたが、他のクラスの先生の授業は受けられず担任の先生の授業のみなので、結局子どもが全く受けなかった。

　現在、週２～３日の保健室か支援室の別室登校で五月雨登校であるが、行き帰りの送り迎えが本当に大変で、朝は嫌がったり不安定だったりするので送るのは仕方がないが、帰りは下校時間になる最後の授業まで受けなくても子どもが１人で下校していいように対応してほしい。我が家は給食終わりまでしか子どもが学校にいられないので毎回のお迎えが辛い。帰宅だけなら高学年だし１人でちゃんと歩いて帰ることができる。

- 誰にでも気軽に相談できる話ではない。
- FS を利用していますが不登校ではありません。普段は学校に通い、少しストレスがたまってきたら利用団体で息抜きをしてる感じです。そういった通い方が出来るので決して FS＝不登校では無いと思います。
- 住んでいる市には子どもが学校以外でいきいき安心して通える所がありません。同じ不登校の子どもを持っている親の悩みです。子どもが自分のペースで安心していられる場所を作って欲しいです。あと学校の先生には障がいに対する理解のない先生がいるのも事実です。本当に子どもの障がいを理解できるように先生達の情報交換や勉強会をして欲しいです。
- 世間から見離されているような気がする。答えがないのが辛い。
- 学校というシステムに絶対行かなきゃいけないものではない。子どものペースで学習などするのはいい事だったのかな？自己肯定感を高めるほうが大事だと思う。
- 学校に行くだけが選択肢ではない。いろいろな道がある事を自然と言える学校、教師であってほしい。いろいろな個性の子どもがいる。教室に入りにくいこともある。個別なら、学校に行ける事がある。色んな視点から、生徒を見られる先生が少ない。
- 欠席日数によって、進級や卒業ができるのかわからず、安心して休めない。（私立）
- 学校の先生も、FS の先生方も皆さん、個性を大切に接してくださり、何の文句もありませんが、それぞれの子ども達の興味のある事を大切にする時間や発表したりする時間を積極的に作って、勉強、スポーツ以外で素晴らしい部分をみんな１人ひとりが持っている事に気づける授業を学校という場所で沢山作って頂けたら、全ての人が生きやすい世の中を子どもたちの手で作っていってくれると感じて居ます。
- 学習障がいがあり書けないことでテストの点数が悪く、頑張っても報われない積み重ねから勉強することに疲れ、僕は勉強ができないと思い込んでいます。タブレット使用を認めてもらいましたが、自分の中で障がい受容ができず、配慮を受け入れられない本人の問題もあります。いろんな人がいて、いろんな学びがあってよいという意識

が先生をはじめ世間に広まってほしいです。中学校は高校受験のために勉強することがどうしても重視されますが、それだけではないと思います。勉強以外のことを先生方は見て、認めてほしいです。いろんな学びが認められず、県立高校で書けない児童に対してもパソコンで受験も認めてもらえない子は、選択肢がみんなと同じようにありません。やる気もなくなります。愛知県のようなマークシート試験や東京都のようなたくさんの配慮をして欲しいです。

- 今の公教育が子ども達にとって本当に良いものなのか疑問があるので不登校な事について特に悪いことだと思っていません。むしろ、FS のような子ども達が伸び伸び学べる場所が今後必要になってくると思っています。FS も学校同等に補助金を出して頂いて、子ども達にも学ぶ選択肢を与えて欲しいです。
- 学校以外の学びの場、子どもの居場所ができてきたのはいいが、FS などに預けるための費用などが払えず通えない方もいると思いますし、実際親の負担は大きくなってしまう。もっと預けやすくなるように、国からの補助などがあると嬉しい。FS 側にも、運営してくための補助をもっと増やしていただけると、運営の方々も助かる。他の県では、半額補助などの支援もあるため、三重県でももっと積極的に進めてほしいです。
- 不登校が良くないこととして、劣等感を抱かせ、問題行動のように扱われています。居場所などの情報を学校からも欲しいし、公立の学校以外の選択肢も当たり前のようにあると嬉しいです。
- 小学校の途中から行き渋りが始まり一時期(４年間)は母子登校をしていた。中学校の１年生と２年生の１学期までは頑張って自分で登校していたが思った以上に無理をさせてしまい、また不登校になってしまった。子どもが辛い事をなかなか気付けず反省したが学校や FS の先生がとても良く、前を向いてゆっくり進む事を決めたがまだまだ不安ばかり…他の姉弟も居るので難しい事ばかりです。
- 我が家は不登校ではなく、基本的には学校へ行っています。いい FS に出会えてよかったです。参加費・交通費がかかるので、補助金があるととても助かります。
- 低学年の不登校や精神的に弱い子どもは、留守番させることもできないので、親は退職などを余儀なくされてしまう。そのため、子どもとの時間が確保されたものの経済的余裕のない状態が続く。子どもの心身は不安定なので、就職活動にも影響する。FS も実費で費用がかさむため、経済的な支援が欲しい。

　不登校になった当初は、学校からのアプローチも多くて困った（家庭は余裕がない状態）。しばらく経って、状況が落ち着いた頃にはアプローチが無くなっている。タイミング良くというのは難しいのかもしれないが、子どもの気持ちに寄り添ってほしいと思った。転校も考えて動いた時期もあったが、子どもが教室に入れないとダメとか、転校時期は４月になるなど、子どもの気持ちを尊重して大人が柔軟に動いてほしいとも思った。

- 学校がもっと子どもや保護者に寄り添いながら、安心して学校生活が送れるようにしてほしい。FS に通ってよかった。子ども自身もとても楽しみに通えていて、安心できる居場所ができ、やってみたいこと、できることなどが増え、心も体も成長がみられる。自分のペースを大事にしてもらい、「それでいいよ」と認めてもらえることが、子どもや親の安心感にもなり、すごくありがたいです。
- ニーズに応えられるカウンセラーや施設に出会うことが難しい。家族や家庭環境まで

含めたカウンセリングが必要なケースもあるが、そこまでの関わりにまで発展しない。また、利用が長期にわたると関係性の上下が出て来て、本心を伝えにくくなる。こちらの忖度心理を利用され、コントロールされている感がある。

- 学校に相談し、子どもの要望を伝えても、学校が変わってくれなかった。学校がもう少し柔軟に対応してくれれば、学校に通える子どもがもっと増えると思う。学校をみんなが通いやすい場になるように変わってほしい。

  また、公立高校でも、各学校で校風や行事が異なるので、どの学校に通いたいか柔軟に選択できるようにしてほしい。学校の教員の考え方が、凝り固まっていて、学校・学力が全てだと思っている節がある。学校教員のほとんどが大学を卒業後すぐに教員になっていて、社会経験がない。最も常識がないのは、教員と警察官と言われる所以であると思う。もっと、多様な経歴を持った教員を採用すべきだ。また、教員には、大学卒業後１年以上、学校以外で社会経験をすることを条件にすると良いと思う。

- 「不登校＝ダメなこと」、「不登校＝ダメな子ども」という世間のレッテルが辛いです。甘やかしてるからこうなるとか。FS で学んでいても登校しないと成績つかないので内申点もつかず高校を受験出来ない。大学だって推薦でなければ当日のテストの点数で合否が決まるので、高校もそれが平等ではないのでしょうか。聞いた話ですが、中学校で先生にひいきされてる子はいい成績つくけど、うまく取り入ることができない子は不利と聞きました。これは不平等じゃないでしょうか。
- 学校に長期間行っていないのに、学校納付金が他の人と同じ金額がかかること。オンライン授業とかしてほしい。
- 私たちを取り巻く環境が変わる中で、学校や子どもたちの教育システムも変わらざるをえないが、その方向性は画一的では対応できなくなってきている。細やかな変革が求められるが学校現場も疲弊しているのが現状だ。大人が幸福であれば、その元で育まれる子どもたちの未来も明るいと思う。
- 教育支援センターはすぐ相談したかったが予約が１週間程先になりタイミングが合わず実用的では無い。相談が必要な時に相談できる体制が必要。また、面談にて相談したが高圧的で一方的で冷たい対応。忙しいとの事で寄り添う意向が感じられず保護者や子どもの方が用意された環境に合わさなければならない支援のあり方は実用的ではないと思った。また、建物も役所の中で、頻繁に人の往来があり不登校で他者に会いたくない子どもには適切では無い。環境と人的支援が脆弱であり利用には至らなかった。

  同様の理由で学校の校内教育支援センターは暗い倉庫の一部を利用しているが適切ではない。不登校初期は親も子どもも混乱し家庭内暴力にも発展しかねないため、早期に相談できる窓口が必要。我が家は家庭内トラブルで警察にお世話になることで落ち着きました。それもひとつの方法かと思います。

  また、学校の方からは２週間に１回の電話のみであり、子どもに対して積極的な働きかけはなく親任せである。家で独り過ごす子どものために頻繁に一時帰宅をして昼食を共にし、FS や塾などへの送迎が毎日ありますが、その生活も半年すると慣れました。しかし、仕事には専念出来ない状況は続いており、長期になるのであれば離職せざるを得ないと思います。住んでいる市は朝から終日やっている FS が無いのですが、週一回でもあれば仕事に専念出来るので有難いです。公的な支援制度の中で送迎

のサポートがあれば、より利用者は増えるかと思います。

- 現場の学校関係者、教育委員会は、不登校についてまったく理解していないと思います。学校に戻す事ばかりを優先させていると思います。ある人のブログが素晴らしく、そのブログにすごく救われました。そのブログは、元不登校ママによるブログで、具体的で分かりやすく、学ぶことが非常に多いので、学校関係者の方に是非読んでいただきたいです。
- 受験が近づくと本人も親も不安が強まります。情報や学習などの支援をしてもらえると心強いです。
- もっと専門の大人が欲しい。教師は懲り懲り。いい人もいるけど、ちょっとずれている。教師としてのプライド？
- 学校の別室に通っても、ほぼ一人や他の不登校児だけと過ごし、教育サポートや課題指示など無いのが現状。教師はほとんど来ない。本人曰く、無理して学校に行っても家にいるのと一緒、勉強まったくわからずほぼ絵を書いているとのこと。新卒１年目の担任だったのに学年主任のサポートや他の教師のサポートは皆無。３年間同じ担任。できる限り提出物を提出したいと本人は思っているが、提出物は期限切れで手元に届くことも多々。学校に来られない子をかまえないぐらい学校に余裕が無いのだろうなと感じています。
- 不登校により親は不安で押しつぶされそうな気持ちを日々感じていると思うので、相談出来る場所やアドバイスまたは不登校生を抱えている家族や克服した家族と話し合える機会を作ってほしい。
- もう少し学校の対応を良くして欲しい。子どもにあった対応をして欲しい。
- 学校や先生、集団活動に合わせられないお子さん、空気を読めないお子さんをダメな子ども、問題児として対応することがまだまだ多いと思います。うちの子のように明らかな虐待指導ではなく、先生方が対応に困ってしまうだけでも、その困り感が他のお子さんに影響してクラスの中で問題児という位置づけになるように思います。
　そこから、その子の居づらさが始まるように思います。子ども１人ひとりの個性が認められる学校作りのために、先生が対応に困らないよう、先生をサポートする専門家を多く学校に入れて欲しいです。発達の専門家もそうですが、保護者対応やいじめ対応なども先生に任せきりにならず、困ったとき、出来ないことは、専門家に助けてもらうことで問題は解決する、物事は良い方向に向かうという体験をまず先生方にしていただきたいです。そして、お互いに助け合う、出来ないことがあっても大丈夫！個性を大事にしていこうという学校の雰囲気を作って、学校を子どもが行きたくなる場所にしてほしいです。先生も子どもも個性をつぶされ、個人を否定される、今の学校を変えてほしいです。
- 子どもは担任の先生が合わないこと、クラスに合わない子がいたことを誰にも言えないことをどう言ったら良いのかわからないし、言っても何も変わらないと思って、不登校になっていきました。小学校のときに嫌だと思っていたことを話してくれたのは、一度も学校に行かなくなった中学２年生になったぐらいからでした。
- 費用の面から、FS 自体を選択できないお子さんもいると思います。不登校により、精神的に厳しい毎日の中、経済的な負担が大きいのはかなりしんどいです。また、FS は狭くて設備が整っているとはいえないため、敏感な子どもは過ごしにくいところもあると思います。便利な通いやすい場所で、整った設備の FS があればいいと思いま

す。

- 不登校について関心を持って対応して欲しいです。どうしても切り捨てられているように感じてしまいます。本人に合わせた場所が選択できるよう情報提供をしていただきたいです。
- 高校生になるまでは明るい子どもでした。希望の高校に入学できたものの、毎日大量の課題やテストなどに追われて、心身が疲弊し、どんどん性格が暗くなってきてました。言葉を発することが少なくなり部屋からも出てこなくなりました。良い大学、有名な大学へ行くことが素晴らしいという価値観がとっくに崩れ去っているこの世の中で、それを良いことだと主張し、更には本人や親も望んでないようなレールを敷いてくる学校のやり方や文化には限界が来てるのではないでしょうか？先生方もそういう中で働かれているわけですが、先生自身も幸せややりがいを感じているのでしょうか？色々相談しようとしても、お役人的な表面的な回答ばかりで、生身の人間としての意見がどなたからも聞けませんでした。困っている子どもはうちの子どもだけではありません。自殺未遂をしたり、クリニックへ通い薬を飲んだりしながら生活を送っている子どもさんもたくさんいます。学校の先生方も一生懸命対応して頂いているのは理解できますが、あまりにも世の中のニーズや流れに合ってないと感じました。また、学校の役割は学ぶ楽しさや喜びを子どもに伝え、経験させていくことだと思いますが、それどころか苦しみを与えてしまっています。そのようなことをもう少し、生身の人間として感じて頂ければと思っておりました。
- 学校では皆無に等しいくらい支援がなかった。FS へは行かせたいが、送迎が難しいなど色々な困難があった。
- 私の場合、学校との対応や勉強方法、親子の接し方など、保護者の悩みや困り事、医療機関への受診について、深いレベルでアドバイスをもらえたのが利用団体だけでした。ここに繋がってなければ、私自身もどうなっていたかと思うほどです。親自身が子どもの不登校状態を受け入れるまでがいちばん大変でした。教育支援センターでは医療機関への連携まではアドバイスしてもらえなかったので、物足りないと感じてしまいます。
- 支援の先生が、発達障がいに理解がなく、特性でできないことを、中学生ならできて当たり前と言って、サポートが全くなかった。支援級に行かなかったので支援をはずされ、以後全く支援がなかった。
- 不登校に対して、親の責任、家庭環境が悪い、なぜ税金を使わなければならないのか、という声をよく聞きます。ただ、昔は変わった子で生き辛さを一生抱えて生きていた人が今では検査を受けたら、自分がどんな病気、どんな障がい、どんな傾向があるか、どう生きていくのか、知ることができるようになったと思います。不登校の子もやはり、そういった傾向があり、ぜひ国をあげて支援して頂きたいと思います。うちの長男も不登校、少し登校、暫く不登校と繰り返しています。今は半年ほど行っていません。家では勉強をしてくれず、ゲームやスマホで動画を観て、一人部屋で過ごしています。ご飯はダイニングに出てきて３食食べ、お風呂にも毎日入りますが、朝まで起きていて昼に寝て、昼夜逆転しています。なんとか昼夜逆転を直したいのですが、なかなかいい案が見つかりません。学校も集団が苦手な様で、保健室も嫌だと言います。各学校に不登校の子が居られる場所があればいいのですが。

　まずは、学校の敷地に入ることが大事だと思うので、勉強をしに行く、友達と過ご

す、というのは後回しにして、個別で落ち着ける空間、好きなことができる空間、そんな部屋があればと切に思います。人を配置できないと言うのなら、そこに常駐するのは別に教員免許やカウンセラー資格を持つ人間じゃなくてもいいと思います。シルバーの方たちだって人生経験が豊富でいいと思います。昔ながらの子どもはこうあるべき！みたいな価値観の塊の方は困りますが。私たち親にも子どもに対してやるべきことがありますが、国にも県にも市にも、ぜひ不登校の子が過ごせる部屋を各学校に配置して頂きたいです。

- 学校も、市もなんの力にもなってくれない。相談しても、的外れな回答や支援ばかりで何度もがっかりさせられた。その度に理解させていない、人ごとなんだという気持ちがわいてきて、とても悲しかった。
- 無理矢理なやりとり、出来て当たり前論、周りと比べない、病人扱い。
- 学校の先生自身がこの問題に関心がない人が多いと思います。それよりも教育ということにきちんと向き合っていると思える方が少なくなってきていると感じます。校長・教頭も同じです。
- 中２を全休で過ごした後、中３で校内適応教室に行こうとしたが、担当の先生がいるのは１限と５限のみで、2～4限は毎日違う先生が代わる代わる担当するシステムで、その中には不登校になった時の先生の名前があったこともあり、「毎回違う先生が来るのでは、こっちが気を遣う。無理。」と言って、結局校内適応教室には参加できなかった。校内適応教室には、担当の先生を一人は常駐させて頂きたい。
- わが子は、私があの手この手で学校に引っ張っていた小２の時、「消えてなくなってしまいたい」と言いました。それで、学校に無理して連れて行くことは止めました。愛知県のFSに知り合いが通っていたこともあり、そこになら行きたいと言われましたが、月謝も高く、片道２時間かかるので、通わせてあげることはできませんでした。民間のFSは月３万円以上のところが多く、そこにプラスして交通費もかかり、家庭の費用負担が重いです。

　例えば世田谷区には、利用団体が運営する公設民営の無料のFSが３か所もあります。もともとインターナショナルスクールやオルタナティブスクールを希望していたならともかく、いろいろな理由から学校に行けなくなってしまった義務教育中の子どもの教育に対し、自治体からは何の補助もなく、すべてを家庭に押し付けることには憤りさえ感じます。税金は小学校では子ども一人あたり年間85万円、中学校では97万円が投入されていると聞きます。不登校の子どもがいる家庭は、税金は払っているのに、学校からの便益はまったく得られないという現実の中で、子どもの将来に不安を抱えながら生きています。三重県に住んでいなければよかったと、これまで何度思ったかしれません。

- 学校に行きづらくなった時、保護者はどんな風に行動して、誰に相談すれば良いのか等、学校の通信や広告などでもお知らせがあればいいかなと思います。身近に不登校というものの情報が欲しかったなと感じました。情報が少しでもあれば、子どもを追い込むことが減るかなと思っています。
- 学校を安心して休める体制が欲しい。授業についていけなくなる、休みグセがつくなど言われると、親は焦ってしまい無理に登校させようとしてしまうが、それが逆効果になることが多い。地域の学校以外の選択肢があまりにも少ないし、ドロップアウトしたら終わりのような風潮が親を追い込んでしまう。うちはすでに不登校を脱出した

が、不登校したからこそ親として気づけたことがあり、子どもとの信頼も強くなった。子どもも自分の道を歩みはじめており、人生終わりではなかった。色んな選択肢が当たり前の世の中になって欲しい。

- 我が家は学校生活に馴染めなくなり行けなくなりました。学校へ行けなくなった小学生の居場所が少なくて困りました。起立性調整障害も出ています。かかりつけの小児科があったのでよかったですが、介護と同じでどう対応したらいいのかわからないことが多いです。不登校はその子一人ひとり原因が違うので、寄り添いながら伴走してくれる知識のある人がそばにいてくれると非常に力強いです。スクールカウンセラーさんありがたいです。
- 子ども一人ひとり、性格、発達状況、環境、親の考え方、周囲の理解度によってその子の進み方が違ってくると思います。私は小学校時代の先生、療育の先生に恵まれ、親身になって助けていただいた、おかげで現在は元気に中学校生活を送れています。色々なサポートもタイミングが大事かと思います。一生懸命かかわるあまり、親の方もしんどくなり心身疲労困ぱいしてくるケースもあると思います。子どものカウンセリングも大事かと思いますが、親も心身ともに健康でいられるようなサポートが必要ではないかと思います。
- 不登校になる子どもは大抵の場合は成長期で、本人自身も成長途中です。情緒不安定だったり、考え方に偏りが大きかったりする時期だと思う。そんな時期に不登校だからとスクールカウンセラーにかかると、精神科への受診を勧められ、大抵はうつ気味であるだとか、双極性障害の疑いがあるなどと言われ、薬を処方されたことが何よりの遠回りだったと思っている。成長期の子どもへの薬の処方はかなり慎重であってほしかった。

　また、医師に言われるがまま、子に薬を飲ませていた自分のことも不勉強であったと悔やんでいる。恐らくではあるが、精神薬により気分の乱高下が酷くなり、一時期起き上がることも困難であった。そして、本来の健康な体調に戻すことに大変時間がかかった。何人かのスクールカウンセラーと面談してきたが、最終毎度精神科への受診を勧められたことも疑問である。精神科へ繋いだ先にどんなことになっているのかを知らずに勧めているのだとしたら、かなり問題のある対応だと思わざるを得ない。不登校であることが悪いこと、いけないことのような風潮が親も子どもも追い詰め、身動き出来なくなると感じた。

　不登校になった場合、まずはゆっくり休ませること。そして、登校出来なくても、こんな学びがある、進路があるなどといった提案を学校なり、県なりが提案してくれると、親も子も少しは安心し、親子関係も歪むことなく済むのではないだろうか。利用団体では、本当に子どものしたいことを優先しており、子どもを信用してくれているところが子どもには合っていたと思う。利用団体にも二年ほど行けない時期があったが、積極的に来るように言われることもなく、親としては歯痒さもあったが、結果的には利用団体がそのようであったことが子どもの気持ちを軽くしていたようである。ただ、利用料としては高卒資格も取りたいとなると、利用団体の利用料プラス通信制高校の学費も必要で、我が家としてはどうにか支払うことが出来たものの、経済的にあまり余裕のない家庭にとっては、通わせることが難しいと思う。中学までは学校も何かしらの対応はしてくれるが、高校からは殆ど何もしてもらえない(我が家がそうでした) 。高校以降の不登校に対して、FS を活用するハードルを下げてもらえ

たら、救われる不登校児も多いと感じる。

- 学校が担任任せではなく、もっと学年や学校全体で不登校の生徒に関わっていただきたいです。担任の先生により、かなり対応に差があり、今の状況で仕方がないのかもしれないが、不登校をかなり軽くとらえている先生が多いように感じます。(とくに若い先生)。また、別室や相談室は校内にあるが、場所があるだけでは不十分だと思います。先生方はそれぞれかなり忙しく、なかなか対応が難しいのが現状です。できれば、別室専属の先生(または先生に代わる人)が、ある程度の時間帯そこにいてくれる体制がベストではないでしょうか。必ずしも先生である必要はないと思います。むしろ先生やスクールカウンセラーではない方がいいのかもしれません。子どもたちにとって、信頼できる大人がそこでいつも待っていてくれる、いつでも行けば話を聞いてくれて、ありのままの自分を受け入れてくれる、そんな場所と人が全ての学校内にあってほしい。そうすれば、学校に行ける子どもたちも少しずつ増えていくのではないでしょうか。教育の要は、FS でも適応指導教室でもなく、やはり学校であり、人なのだと思います。不登校は命の問題です。
- 学校への関わりをすごく避けるので今後が心配。他人と関わることが苦手で、あまり関わりたがらない所があり、これから先誰かしらと関わっていかなければならないと思うとすごく心配。社会に出れるか不安。
- 娘が小学２年生で学校へ行きづらくなった時、担任の先生が私や娘の話を聞こうとせず、とにかく学校へ戻そうと働きかけてきたことは今でも辛い記憶として残っています。学校へ戻る以外の選択肢を一切教えてもらえず、ただただ家で過ごしたり、家族で普通に遊びに出かけたりしていました。学校が教えてくれないので、自分で適応指導教室があることを調べて、連絡して、見学に行って、どんどん行動して行きました。あとで知ったことですが、本来は学校が適応指導教室の案内を親にするべきだったようです。学校へ戻すことだけではなく、子どもの気持ちに寄り添う姿勢でいてもらえたらなと思います。

  あと、適応指導教室に通うようになって、同じ小学校の子も来ていることがわかり、娘以外にも、同じ小学校で何人も不登校の子どもがいることがわかりました。そうゆう、同じ状況の子どもを持つ親どうしが、繋がれて、話を出来る機会が欲しいと思いました。

  今はフリースペースに自分のペースで通えている娘ですが、週２回なので、もっと他にも行ける場所があれば、親としてはありがたいですが、実際は他の FS に通うことは、金銭的にも難しいですし、義務教育の年齢なので、子どもの学びの確保として、支援していただけるとありがたいです。
- クラスが荒れていて入れない場合は、別室登校させて欲しい。または、オンライン授業をしてほしい。勉強を教えない FS はたくさんあるが、勉強を教えてくれる先生がいる FS がないのが困る。
- この課題に関しては幅広い多様化を目指して欲しい。教員個人や、学校個別には限界がある。子どもの教育にお金をつけることは大切。
- 子どもたちが学校に行かなくても他にもたくさん居場所はあるから大丈夫と思えるような環境ができていって欲しいと思います。一年生の時、適応教室なら行けそうだったので通いたいと希望しましたが、まだ低学年なので学校の方へ行けるようにしたほうが良いからとのことで叶いませんでした。他でも同じようなケースがあったことを

聞いています。低学年であっても本人が希望するのであれば、受け入れる体制をぜひ整えていただきたいです。

- FSの紹介はどこもなく、ネットで探すしかなかった。不安や緊張が高く学校での学習が難しいと感じ、学習できる場所を探しているがない。市の教育支援センターは、小学校５年からの利用となっており、我が子はそもそも対象外。小学５年以下の子は、週１回１時間の学習場所があると言われても、こちらの目的には合わない。教育支援センターはひきこもってる子優先で、そういう子でも待機待ち、希望してもすぐに利用できないようで、小学５年になったとしても、ひきこもってはいないうちの子は利用出来ない。利用したい子が利用できない今の状況は、たくさんの子ども達の可能性を潰しており、市は対応を放置し、見放しているように感じる。そのうちでは遅い。子どもの一年という時間の重みを考えて欲しい。未来を守って欲しい。自助努力では限界がある。学校やFSには、感謝しますが、市や県の施策に感謝できたことは、一度もなく、今のFSが見つかるまでは、県外への転居も検討していたが、家庭の負担も大きく前に進めない状態であった。地方だからしょうがないではなく、地方だから、三重だからできることを考えていただきたい。ひきこもり状態で大人になったら、将来納められるはずの税金はなくなり、生活保護など税金を支払うかたちとなり、結局多くのお金を自治体が負担することになる。そうならないためにも、今助けが必要な子ども達に適切に税金を使い、子ども達が自分の人生を歩めるように早急に支援していただきたいです。住んでる市に小学校低学年の子が利用できるFSがなく、隣の市まで通っているのも負担が大きいです。市内で利用できる自治体主導の施設を作って欲しいです。
- 不登校については、結局は親が何とかするしかないのだと感じています。不登校になった理由が本人のせいでなくても、学校がどうにかしてくれるものではない、学校側が解決する術を持ち合わせていないと思います。仕方のないこととあきらめています。
- このままの状態で何とか高校に入学してもまた不登校になってしまわないか不安である。
- 不登校だと、将来の高校は限られた範囲でしか選べないのが残念です。中学校へ訪問して直接聞いたら、公立高校へはほぼ行けないような話をされ泣きました。子どもの将来を考えると、たまに泣けてきます。自分のせいではないかと落ち込む事もあります。もう少し子どもの将来が明るくなるような取組を希望します。
- 高校入学式直後から通えなくなり、学校に行かせなければとの思いから、かなり強い言葉で娘を責めてしまいました。親族が塾として通っていた事もあり、すぐに利用団体の先生が対応をしてくれて、病院の紹介もしてくれました。ある程度、回復した段階で、高卒認定→就職のルートを導いてくれました。相談機関が無かったらと思うと、今頃、どうなっていたか分かりません。親だけでは対応が難しいな…と感じています。
- 子どもが不登校になった時に、何をすればいいのか分からなくて、私が不安になった。スクールカウンセラーに相談しても、カウンセラーのアドバイスを娘が拒絶してしまい、娘の立場を考えてくれる場がなかった。中学不登校で、卒業写真にも映りたがらない状況だったが、高卒認定→短期大学への進路を上手く誘導してくれるFSに通えて、運が良かったと感じている。

⑦ 学校を休んでいる間、嫌だったことの子どもの回答でその他の内容

- 悩みを打ち明ける相手がいなかったこと。
- 嫌な気持ちはあるが、特に何かわからない。
- 学校に行きたいと思っているのに行けないこと。
- 学校でのいじめが原因だったから、学校に関すること、人すべてが嫌だった。
- 担任との話。
- 行こうとしても行けなかったことに対する自己嫌悪。

⑧ 学校に求めたいことの子どもの回答でその他の内容

- 学校での居場所を作ってほしい。寄り添ってくれる先生や静かにいられる場所。
- 生徒たちの理解と、生徒たちの本音を聞くこと。
- 先生の柔軟な対応。頭ごなしに決めつけないで欲しい。
- 正しい知識を持った人の大量配置。また、理解のない先生のクビまたは、雑用だけをさせて、子どもに触れさせない。生徒への適切な対応。障がい者だからといって赤ちゃん言葉で話す教員は不適切。
- 学校の先生にもっと変わってほしい。

⑨ 三重県に求めたいことの子どもの回答でその他の内容

- 別室や別の対応できる先生がいるといいと思います。
- 先生たちへの教育（不登校についての理解）。
- 不登校がかわいそう。ダメなヤツ。問題があると思い込まないでほしい。
- 不登校の子どもたちのための進路指導や進路に関する情報を教えてほしい。

⑩ 不登校に関することで、感じていることや考えていること＜子どもの回答＞

- 不登校専用の進路を紹介するイベントをやるのはとてもありがたいが、もう少し早くに実施して欲しかった。在籍中学校の進路の紙の提出期限がギリギリだったので両親と自分自身と相談する時間が無かった。本当に不登校専用の進路を紹介するのはとてもありがたいので、これからも実施して欲しい。
- 学校に行かない事がフツーじゃないダメ人間だと思っていた。でも、そんな事なかった。今は元気。
- 利用団体の様な活動が学校でもできたら学校に行きたいと思う。
- 自分の将来のことを考える時間がいっぱいありよかったと思う。
- 大人の勝手な考えではなく、子どもたちの本音を聞いてほしい。子どもたちにとって必要な事は何か。勉強が必要ならなぜ必要なのか、ちゃんと教えなければ、それは子どもたちの意思を踏みにじることである。それは労働とは違う。本当の教育とは、子どもたちにとって有意義な時間になるべきである。でなければ、学ぶ意思を失い結局は忘れてしまうのだから。
- 学校自体が教室に押し込んで同じことをさせる日本の教育がダメ。これからも、いじめは、なくならないでしょうね。できない者は違う目で見られる先生が認めてくれないとまわりも同調し差別がはじまる。先生が約 30 人から 40 人程の生徒を見られるわけない。それぞれ個性があり、それぞれ違う。それを認めてください。エスカレー

ター式で挫折なく教師になった人にはわからない。母親が不登校経験者で自分が不登校になった時、一切責めなかったし、登校しなさいと言いませんでした。当時、祖母が不登校を責めたて、母は辛かったと言っていました。母は、通信制高校と大検を受け看護師になりました。学校に行けなくても大丈夫。他にも道があると何度も言っていました。他にも道があるということを学びました。学校の先生にも、余裕のある教育で、生徒を見守ってあげてほしいです。

- 小学校に行けなくても利用団体が楽しくて無理せず行けるのでいいと思っている。
- 久しぶりに学校へ行く時の学習が心配。
- 行かないから良くないとか、全く関係ない。
- 毎日やりたい事が出来てお小遣いが増えて行きたい所に行ける。学校に行かない暮らし楽しんでます。
- 学校も利用団体も友だちがいるから好き。
- 学校に行かなくなってから、生活がとても楽になり、自由に過ごせるようになりました。
- 学校は行きたい時に行く環境がいい。
- 意外と寂しい。イジメとかはいつのまにか忘れたりして、なんで家にいるのか分からないようになる。
- 自分のペースを尊重してくれる環境を提供して欲しい。その中でなら、自分のペースで進んでいけるから。
- 不登校の人のために何か新しい施設や取り組みを作る時には、もっと私達のような不登校やいじめを経験した人と話し合い、何度も意見を聞いて作ってほしい。じゃないと誰もあまり利用せずに時間とお金だけ使って結局勿体ないです。大人からみていいと思った考え方も施設も取り組みも私達にはハードルが高いのです。作るのも変えるのも決めるのも大人達。私達子どもではないです。
- このフォームの作り方に問題がある。
  1. 親と子の答える部分が所々複製した部分がある。例えば、子どもに利用料を安くして欲しいなどの回答を求める必要はない。
  2. 子どもが回答する部分で、親にたたかれるなどが回答出来る部分があったが、同じフォーム上であれば、親が下の問題を見る可能性があり、もしも家庭内暴力がある家庭であった場合、正直に回答する事が困難であるためフォームを親と子を分ける必要がある。
  3. 回答する数を特定の数に指定している部分(3 つまで回答可など)があるが、それはこちら側が伝えたいことを伝えられない可能性があるため、制限しない方が良い。
- 学校に期待も希望ももてない。特に年配の先生は頭が堅物できらいだ。
- 学校の先生たちによる不登校の子たちのサポートが行き届いていないと感じた。先生たちは何もせず、自分で解決してという感じだった。先生たちの中での連絡が行き届いていない。学校内での別室があったけれど、先生はたまにしか来てくれなくて勉強もほったらかしで勉強はしたいが教室に行けないので辛かった。翌日の予定を毎日送ってほしいとお願いしていたけれど、届いたり届かなかったりした。不登校生用のクラスや学校玄関（友達に見られたくないから）があるといいなと思った。現状の学校のことについて、聞けば教えてくれるが、聞かないと教えてくれなかった。学校に行

っていなくても、学校に行った時の安心材料として、学校の変化などについて情報が欲しいと思っていた。学校で先生に話したくても、同級生が周りにいて話すことに勇気がいった。三重県では不登校について解決してくれない（違う中学校の不登校友達も同じだと言っていた）。不登校になる前もなった後も不安要素が多く辛かった。通信教育の高校が決まって心にゆとりができた。

- 対応するならしっかり知識を持ち、原因となった先生や問題がある生徒、親との対応をしっかりとしてほしい。有能な先生を他の学校、他の市に流さないでほしい。学校を２つに分解しても良いぐらいの大人数の小学校に通っていたので、もっと先生を増やして、給与を上げて、勤務時間の短縮、残業の緩和などをしてあげて欲しいと思う。
- 学校の先生に相談するのは無駄。
- 私は現在、大学生（四年生）で問題なく学生生活を送ることができています。高校時代は教室に居場所がなく週に１、２回高校を休んでおりました。また、心の不調もあり、死を意識したこともありました。それは高校生で外の世界を知らない若さゆえの考えでした。むしろ選択肢がそれしかないような感じだったのだと思います。そんな時に、FS という存在と触れ合えたことで、私の居場所があるのだと思うことができました。あの時は間違いなく FS という存在に助けられていたのだと確信しております。微力ながらですが、少しでも FS という存在の助けになればと思い今回のアンケートをお応えさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。
- 将来が不安です。
- 部活強制はやめてほしい。
- 就職することが出来るかどうか不安。
- 学級の子達が落ち着いて授業を受けてくれるようになったら、私も学校に行けるのに。少人数クラスで習熟度別になったら、騒がしい子達と同じ空間にいなくてもいいから、学校に行けるのに。
- １度不登校になっても、きちんと社会復帰できるような制度がなければ、不登校になった本人はもちろん、親も大きな不安を感じることになると思う。
- 不登校になる自分が悪いと思ってしまい、さらに無理をして精神的な病や不眠症になり、とても辛い思いをしたので、そうなる前に FS の存在や気軽に FS を利用できる状態だったらよかったと思う。でも、会費が安くはないので気軽に行けない人もいる。会費が理由で行けないという人が出ないようにして欲しいと思います。
- 高校の通信のようなオンライン授業を中学校にも取り入れて欲しい。
- 学校が怖くなった瞬間から、自分はダメだ…親の期待に応えられない悪い子どもとの認識が強くなり、絶望感しか無かったです。今も、正直、毎日働ける状態ではないですが、少しずつ社会に居場所ができてきました。社会に戻るのには時間がかかるのかなと感じています。
- 学校に行けなくなった理由はよく分からなかったですが、友達関係に疲れていたような気がします。どうやって友達と接したら良いかが分からなかったです。今、短大では上手くできていますが、当時は、人間関係に気を遣い過ぎていて、毎日、疲れていたように思います。

3．不登校の親の会に参加した保護者及びその子どもへの調査

① お子様が学校に行かなくて不安になったことの保護者の回答でその他の内容

- 子どもの体調が戻らず先が見えない不安。
- 理想的な代替教育を受けさせるための経済的余裕が無いことが不安だった。
- 死んでしまわないか。

② お子様が学校を休んでいる間の学校の対応で困ったことの保護者の回答でその他の内容

- こちらからお願いしたことを放置されたり、必要な連絡が来なかったりすることがあり、軽視されているような気持ちになることが度々ありました。
- 先生から言われる正論。
- 子どもの状況も常時変化するので、連絡が欲しい時もあれば、しばらくそっとしておいてほしいときもあります。その都度家庭や本人に相談してもらえるとありがたいです。
- 再三お願いしましたが全く働きかけをして頂けませんでした。不登校担当の教師の方が窓口でしたのでそこで止まってしまい、クラスにも関わりを持たせてもらわず、教育委員会の方も教師の言葉を信じてこちらの訴えはきいていただけませんでした。ほったらかしでした。
- 連絡はあるが、それがプラスなのかマイナスなのかはその時によるし、プリントは配られるが特に指示は受けないので授業の補充とも思えない。
- 毎日欠席の連絡をしなければならないのが、精神的にきつかった。休んでいても、給食費は取られた。給食を断れることは、途中から FS に教えてもらったが、学校は何も教えてくれなかった。
- 毎日する電話での欠席連絡。
- 近所のお子さんが毎日、プリントなどを持ってきてくれたこと。
- すべての授業に出席できるようになることが最終目標であるかのような声かけが日々おこなわれたことに対しては、子どもに同調圧力がかかっていないか、正直なところ、親としては、やや心配した。（ただし、先生には、お世話になったので、感謝の気持ちもあります。）
- 特別支援に在籍しているが、２年まで国語算数取り出しの対応であった。通常級に行きたくないが行かなければならないこと。３年からは常時特別支援級に居れることで少し改善された。オンラインシステムによる欠席連絡が必要だが、毎日どうなるかわからない時に連絡しなければならない。
- 担任の先生の対応が配慮なさすぎて。
- 担任の先生の他の生徒への対応。

③ 学校に求めたいことの保護者の回答でその他の内容

- 不登校について勉強して理解して欲しい。
- 登校できているクラスメイトに不登校中の子をサポートさせる事
  例）手紙を書かせる　配布物の整理
- 住んでいる市の小中学校では、学級崩壊を起こすクラスが毎年あります。毎年あるにも関わらず、効果的な対応がなされず、問題を起こす子はさらに荒れて、同じクラスになった子は安心安全を脅かされた中で、きちんと授業も受けられず毎日過ごしてい

ます。そして、その日常に耐えられなくなった子や問題のある子のターゲットになった子が不登校になる傾向があります。この状態を一日でも早く改善して欲しいです。問題のある子は問題のある子で困りごとを抱えていると思います。その点も含めて、すべてのお子さんが安心して、楽しく学校に通えるように必要な対応をしてほしいです。問題行動のある子をクラスに放置して、危害を加えられそうになる子ども達に毎日、我慢を強いるのは教育ではないと思います。

- 支援員さんの増員。少人数クラス。

④ 三重県に求めたいことの保護者の回答でその他の内容

- 不登校に対する専任の先生の配置。
- 思春期外来の予約が取れないので、医師や外来を増やして欲しい。
- 不登校の子は外に出られない場合の方が多いです。そういう子の支援をお願いしたいです。FS や他の居場所を用意しても行ける元気のある子は、不登校の中でも少ないと思います。それから子ども以上に、お母さんを支援して下さい。そのためには親の会はとても大事な場所になります。学校や公的機関にパンフレットなどの情報提供をお願いします。
- 不登校は誰にでも起こること、不登校になっても将来は明るいこと、たくさんの支援機関や親の会などがあり、一人ではないことを周知してほしい。学校教員に対して、特に学校（学歴）以外の生き方を知ってほしいので研修などの場を作ってほしい。（学識者だけでなく、子どもや親の声を聞いてほしい。）
- 教育現場の根本的な改善。先生が安心、安全感を感じて働けるように、問題行動のあるお子さんの対応やいじめ対応、発達障がい児の対応、不登校対応などなどを担任の責任で行うのではなく、専門家やベテランの先生が中心になって対応し、担任の先生は、クラス運営に集中出来るようにして欲しいです。わからないこと、出来ないことに悩みすぎて、抱え込み過ぎず、協働して、楽しく働ける場にして欲しいです。その経験を子ども達にも共生、協働社会の体験としてさせてあげて欲しいです。
- 現在、教育支援センターもあまり合わないので利用は少ない状況、今年新たに開所した支援団体には行けている。この様な居場所に行っていることも登校扱いにしている都道府県があるとニュースで拝見した。県の方から動いて認定していくことで、子どもたちの自信にもつながると思います。
- どれも必要だと思う。

⑤ 教育支援センターや FS に望むことの保護者の回答でその他の内容

- 民間だと施設などにお金がかかるのでどうしても狭いところが多い。空き家や空き店舗を公的な費用で借りて民間に運営してもらいたい。
- 教育支援センターでは、発達障がいや精神疾患についてきちんと理解して説明出来る方との連携、個別会議をきちんとして欲しい。子どもの現状を理解しないまま、教育委員会から子どもが望む居場所に対してダメ出しされるのは納得がいかない。
- パソコンやタブレットなどの持ち込みを許可して欲しい。誰かとゲームができるということが、外に出るきっかけとなる。ゲームの力は絶大。共通の話題、楽しみがあるだけで打ち解けられる。
- 利用の仕方を柔軟に対応してほしい。

・　家の近くで、子どもが通えるような場所に、好きなことのできるFSがあれば良かった。
・　できたら学校の近くの設置でない方がいい。

⑥ 不登校に関することで、感じていることや考えていること＜保護者の回答＞

・　不登校支援を受けたくても、支援が受けられるのは平日昼間が殆どのため、仕事が休める日数にも限りがあり、十分な支援を受けることが難しいです。仕事を休んで予約をしても、子どもの調子が悪く、急遽欠席せざるを得ないこともあり、そうなると諦めるしかありません。特にシングルの場合は、代わりに連れていってくれる大人もおらず、しかし仕事を辞める訳にもいかないため、方法がないのが現状です。有給休暇も全て子どものために使うような状況で、自身のリフレッシュのために休みを取ることも出来ず、また個人情報の保護により、同じ境遇の親御さんが近くにいるのかどうかも分からず、最初の頃は孤独を感じていました。親の会に参加するようになって、話を聞いてもらったり、共感してもらえたりしたことで、かなり救われました。
・　不登校という表現がマイナスに感じる。他に表現はないのかなと思います。公立高校に在学中ですが不登校に関してわかる先生が少なく、相談先や転学についての情報を得ることも理解を得ることも大変だったので支援出来る先生がいて欲しい。外部に気軽に相談できるところを作って紹介して欲しい。
・　不登校の原因は様々ですが、日本の学校の制度に合わない子が一定数いる状態だと思います。子どもを変えるのではなく、学校側や社会の意識が変わって欲しい。成績や宿題をしたかしないか、運動ができるかできないか云々の優劣をつけ、劣等感をうえつける。皆の前で叱る。時には先生の気分で叱る。このような事に耐えた結果、自己肯定感が下がり、些細なことにも頑張れないほどにエネルギーが落ちた結果が不登校だと思います。先生がお忙しく余裕がないこと、また、子どもを思ってしてくださる事だとは理解していますが、あまりにもマルトリートメント(不適切な指導)が多く、それにより耐えられなくなった一定数の生徒が学校へ行けなくなるのです。もちろんそればかりが原因ではありません。けれど、それが大きな原因になっていることをぜひ知っていただきたいと思います。学校、社会の考え方が変わらない限り、不登校は増え続けると思います。不登校になれない子は最悪のケースとして自殺を選びます。
　また、私たち親も子どものため良かれと思い、また社会から外れないようにと思うあまりに、同じくマルトリートメント(不適切な養育)をしている事が多いです。それを知らないのがほとんどです。私もそうでした。でも、子どもは、親からも学校からも押し付けられていて、それを上手に回避できる子は学校へ行けて、回避できない子は不登校になります。
　また、発達の特性も関係してきます。多様な社会と今は言われています。学校も変わって欲しいと願っています。学校ばかりを責めてしまい申し訳ないです。先生方に理解して頂くにはどうしたらいいかを考えてしまいます。先生方に伝えるように、知って頂けるように説明する努力が必要だと感じています。不登校の支援につきましては、FSや居場所を提供することもありがたいと思いますが、外へ出られるエネルギーのある子はそんなに多いとは思えません。アンケートに答えられるのも、FSなどに通えている元気な子どもたちが答えているのではないでしょうか？外に出られない、どこにも繋がれない子ども達がたくさんいます。どうかその子ども達の支援を考

えて欲しいと思います。

また、親が元気でなければ子どものエネルギーを上げる事はできません。親が元気でなければ子どもの支援は難しいです。私は渦中にいる時は本当に孤独で辛かったです。先生に聞いても、友達に相談しても、ずっとずっと辛かったです。消えてしまいたいと何度も思いました。私と息子だけが知らない場所にポンと落ちてしまった感じでした。真っ暗なトンネルにいるとも表現できます。でも、同じ経験をしているお母さん達との出会いで私は救われました。子どもが不登校になって不安なのは、初めての経験なのに情報がない。孤独だからです。親同士の繋がりで、一人ではないことが分かり、情報を手に入れる事ができます。辛くても心から共感してくれる仲間がいれば頑張れます。だから、お母さんが親の会に繋がるチャンスを与えて下さい。そのためにも、お知らせやパンフレットを配ったり置いたりして下さい。すぐに参加できない気持ちの状態の人もいると思います。でも、そういう場所があることを知っていれば、だいぶ気持ちが違うと思います。

- 初めは、なんでだろう？なんでだろう？と戸惑い、理由探しばかりしていたように思う。私は、早期に親の会を友達に紹介してもらい、相談する事が出来たので、学校との連絡の方法や子どもとの関わり方など学べたので、子どもも早く元気になれたと思っている。当事者の親同士が話せる機会も、同じ地域に住んでいるので先輩ママから情報を貰ったり出来て良かった。
- これからの時代を逞しく生き抜くには、今の学校制度では限界があると思います。不登校はそこに違和感を抱いている子どもたちからのメッセージだと思います。まだ学校に行かないということに対する理解が進んでいないので、行かない選択をしたことにより自分はダメな人間という自信のなさを持ってしまうと、違う道を歩むことに躊躇してしまうので、子どもたちや周りの大人もたくさんの選択肢を知って自分に合った道を歩めるようになるといいなと思います。そして、社会に出てから躓く人も多いので、途中からでもどこからでも自分らしく生きる道を選択し希望を持って進めるようになるといいなと思います。
- 中学一年生から不登校になりましたが、まず親子ともにどうしたらよいかわからなくて困りました。きっかけは友人関係のトラブルでしたが、学校に行かないと勉強は遅れ、高校に進学できなくなる。より友人関係が悪化し孤立してしまうと思い、親としては学校に行かせないと先が不安で、初めは学校に行くように本人に強く勧めていましたが、それは間違いでした。本人が行きたくなければ無理に行かせないようにすべきでした。親としてどうしたらよいか、何が正解なのかわからず、たまたま不登校の親の会の存在を知り、そこで初めて子どもに対する考え方や接し方など知りました。それまでは、親子ともに誰にも言えず、苦しんでいました。私は利用団体がなければ路頭に迷い、親子ともにどうなっていただろうと思います。

また、利用団体には大変感謝しております。学校は担任の先生によって対応が異なり、学年が変わった時に次の担任の先生に引き継がれていなくて、嫌な思いをたくさんしました。通信制の高校があるということは知っていましたが、どのようなものなのか、学校からは全日制以外の高校の情報がまったく得られず、利用団体の親の会から教えてもらいました。学校はまだまだ不登校の子どもや親に対しての支援が不十分であると思います。公立の通信制高校を開設すべきだと思います。他県では既に数ヶ所開校されています。親子ともに先行きが不安になり毎日苦しい思いをしました。不

登校になり、休んでも大丈夫と思える環境づくりが必要と切に思います。

- 私達夫婦は、学校だけがすべてじゃない。息子の人生、思うように進め。なんかあったら、私達がいるって思ってます。起立性調節障がいで、本人が一番悩み辛い思いして、家族が一番支えあっていますが、周りはそんな事感じてくれない。世間体とか。なまけてるとか。今、高校に進学しましたが、義務教育と違うのはわかりますが、義務教育よりプレッシャー大で、親子で凹みすぎて小中学校のときよりしんどいです。
- こういう言い方はしたくありませんが、学校(校長)や教師のあたり外れが大きすぎる。教師の人間性かもしれませんが、親が頑張れば頑張る程何もしなくなるという事を卒業してから気がつきました。後悔してます。
- 子どもの対応で収入が減るのに出費は増えること、学校に行かないなら、ここに行けばいいという場所がなかなか無い（利用するまでに時間がかかる、送迎が必要、本人に抵抗がある）ことが親の負担になっていると感じました。
- 子どもには教育を受ける権利があり、親は教育を受けさせる義務がある。しかし、日本では教育＝学校である。学校に行かない選択をした場合、すべては家庭の努力に任される。子どもは学校に行きたくないのではない。行けないのだ。それはなぜなのか。家庭では長い間、試行錯誤してきた。結局、学校に合わせることができない子や家庭は排除されるのである。子どもの未来や教育を考えなければいけないのは、国なのである。国が大きな指針を持たなければ、不登校の子は増え続けるだろうし、そのうち誰も学校に通う子がいなくなるだろう。
- 家以外の第三者との関わりがなかなか進まない。塾など嫌がり家ではなかなか教えられず、勉強がわからず手につかない。
- FS なども行けない子どもたちがいろいろ選択して行けるような学校がほしい。不登校の理由もいろいろなので、学校からの連絡などさまざまな理由に対応したマニュアルに変えてほしい。
- 学校関係者の方は、学校に戻すことばかりを考えているように感じました。そうではないです。どうして全国で約 30 万人の子どもたちが不登校になっているのか、よく考えてほしいです。私は、不登校支援者のブログを読んで、不登校を前向きに捉えられるようになりました。未来を担う大切な子どもたちに関わる教育現場全員の方や、悩んでみえる親御さん、子どもたちにも、このブログを読んでほしいです。目からウロコです。人生がすごく前向きになるブログです。よろしくお願いします。
- 同校内にどれくらい不登校の子がいるのか。同校内の不登校の保護者の横のつながりを持ちたい。
- 最初は不安で仕方なかったですが、親も子どもも楽しい場所の提供は大切だと感じました。
- 不登校が良くない事、本人に(精神的)問題がある等の印象が多いのではないでしょうか。周囲の対応で子どもが悪い事をしていると萎縮してしまうのが可哀想に思います。決まった学校に行かなくても元気に過ごせる事が理想です。
- 必要な時に受けたい援助が受けられなかったイメージがある。カウンセリングや医療機関への受診、全てに予約が数ヶ月先にしか取れずタイミングを逃したことが多々あった。子どもへの支援も大切だが、それを支える親が癒される場所の提供が欲しかった。暗い役所の片隅で事情聴取のような対応で逆に辛い思いをした。経験者との交流会で安全安心なほっこりできる時間を過ごすことや、安全安心な SNS でのグループ

でいつでも気軽に相談、話し合いなど出来たら心強いと思う。学校以外の支援場所も出来れば学校区ごとに欲しい。子どもが１人で行ける範囲でないと親の送迎が必要。いろいろな意味でタイミングがズレたり、行けない理由が増えてしまう。学校行事も私自身、楽しいものとして捉えていたが、子ども側からすると学校がイヤな理由になっていることもある。時代が大きく変化している今、行事の在り方も子どもに寄り添って変化していって欲しいと思う。先生たち自身の考え方、生き方も含めて、もっと柔軟に対応できる学校、行政であって欲しい。世間の目を気にしての対応、書類の提出、どこかへの報告より目の前の子どもたちを大切に丁寧に接してあげられる学校であって欲しいと思う。しかし、それは理想論であり実際には難し過ぎる。だからこそ、教育を受ける場、人間関係を学ぶ場、社会生活を経験する場、もっと選択肢が増えると良いと思う。学校の在り方自体が、節度ある自由の下で、もっと軽やかになれば、不登校という言葉自体がなくなって、それもただ一つの選択肢だという世間一般の認識になれば、子どもも親も先生も、肩の力が抜けて楽になり生きやすくなると思う。

- 不登校になりはじめの頃は、孤立感があったし不安でいっぱいでした。今は、子どもの意思を尊重して見守ることを大事にしています。支援級に在籍しており、担任の先生はとても子どもに寄り添って、親身になってくれ、応援しながら子どものことを考えて対応していただいていて、とても感謝していますが、次の学年から子ども本人の意思で通常級に転籍します。通常級では今と同じようには対応してもらうことは難しいと思うので不安があります。
- 発達障がいを生まれ持っている子の場合、通級指導教室の先生のように専門の知識と対応が必要です。専門の知識と対応を全ての先生に理解してもらえるとありがたいです。幼い頃から人やいろんな物事が怖いと怯えて社会不安症を持って生きてきた子にとって、集団行動をすることはとても大変な事で、不安をできるだけ少なくして不安をまぎらわせる、少なくする＝楽しい環境、楽しい授業が必要です。これは発達障がいでなくても全ての子どもに言える事ですので、今よりさらに楽しい環境作りに努めてもらいたいです。人より手がかかる子に対しての担任の先生の負担がもの凄く大きいのは保護者も重々承知の上で、でも困った時に頼る先が担任の先生しかいない現実があります。しかし、担任の先生が楽しくないと子どもにとっての楽しい環境はできません。担任の先生の負担を減らして、さらに楽しい環境にできるよう、発達障がいや心について専門の知識を持って対応できる別の先生が担任の先生の補佐(保護者からの相談にものれる存在)についていただけるとよいのではと思います。欲を言えば、通級指導教室の環境で授業を受けられて中学・高校の授業の単位が取ることができれば県立高校に落ちる事もなく、高校も通えたのかもしれません。時には一時的にリモートでの授業で単位を取ることが出来るようになればと思います。普通の子の環境では高校中退してしまった現実があります。しかし、障がい者としては認められず、普通として厳しい環境で頑張らざるをえません。高校中退では就職などハードルがとても高く、金銭的に一人で自立生活は無理でしょう。社会を支える事も無理かもしれません。がんを患った経験のある親としては、親が病気や事故でいついなくなってもいいように、一人で生きていけるようになって欲しいと、常に心配し、明るい人生を生きていって欲しいと願っています。せめて、高校卒業の資格が諦めずに取れる環境が整うよう、今後の世代に向けて願います。

うちの子は、不登校がどんどん酷くなり、中学生の頃から自室にこもりだし、トイレと風呂以外は部屋から全く出ない、ポカリスエット以外は一切９日間食べなかった事がある、どんなに過酷でも冷房暖房は使わない、食事は１食だけ、布団は毛布しか使わないなど、極端なひきこもりになって何年もたちました。不登校の言葉だけでは重症度は計れません。命を軽んじているのがひきこもりです。悩みは打ち明けずに自分の中に閉じ込めてひとりで完結しようとします。不登校の前からそうです。不登校はひきこもりになりやすいです。ひきこもりにならないよう、不登校から、早期から保護者も学校も命を軽んじる子どもに正しい知識と対応をしなくてはいけません。悩みを打ち明けたいと思わせる人と場所の環境作りが幼い頃から長期にわたって必要です。できれば親、学校、自治体、市、県、国が連携して長い目で前向きに行動していく。そうしないと不登校もひきこもりの数も減らず増える一方になってしまうと思っています。

みんなで協力して、幼い頃から悩めるひとりひとりの子どもに接してあげたいと思います。このような発言の機会も、不登校の子の親として初めてです。このように意見を述べる機会も、これからたくさん作っていただけるとありがたいです。

- 不登校の対応は、不登校になってからでは手遅れなので、子どもが学校での居心地の悪さや生きづらさを感じ始めた段階から気づき、対応して欲しいと思います。どうしても避けられない不登校もあると思いますが、前兆のある不登校、助けを求めているお子さんのサインに気づけるだけの、先生の余裕と専門家の視点、情報共有、共生社会、ウェルビーイングの教育を学校現場に早く実現させて欲しいです。
- もっと誰でも相談できるような所が欲しい。時間など関係なく、誰かに聞いてくれる場所があればいいと思う。
- 病気で行くことができないのか、心の問題で行くことができなかったのかが不明であったので心配でした。
- 現在は専門学校に通っていますが、またいつ不登校になるかもと心配がついて回ります。色々な進路への導きがあれば安心かもと思います。
- 担任は１年間しか我が子と関わらないので、簡単な事が言える。(無意味な励まし等)。進級により、担任が変わる際、きちんと引き継ぎをされていない為、新学期の度に１から状況を話さなければならなく、またかという感じになる。どうせなら、不登校になった学年から卒業までずっと一緒の担任にしてほしい。昭和生まれの先生方、特に校長や教頭に、もっともっともっと不登校生徒の中身を勉強して頂きたい。
- 不登校になる前の対応を強化して欲しい。５才児検診で特性に気づけたら助かった。学校で無理を続けて体調を崩す前に、しんどいときに休める部屋があれば数時間の登校なら続けていられたと思う。教室が精神的に疲れて頭痛や腹痛を訴えて保健室に行っても、発熱がないとすぐに教室に戻されていた。親にも連絡はなかった。もっと保健室の先生に理解があって休む時間をもらえると不登校手前で対処できたのではないかと思っている。

子どもに、１年生の頃、あまり授業に出席したがらなかった理由についてたずねたところ、「１年生の時の担任の先生が、もしも〇〇先生（←今のクラスの担任の先生）だったなら、もっと出席していたかも」との返答でした。〇〇先生は、学校の中でも、特に子ども達から人気のある先生で、優しく・面白く・子ども達の話もよく聞いてくれて・楽しく・フレンドリーで、心理的安全性の高い学級運営・授業運営をし

てくださっているように感じます。対して、子どもが１年生だった時、１学年の担任の先生方は、子ども達をとにかく厳しく指導しておられて、あたかも教師たるもの威厳を持って、厳しく指導するべしみたいな風潮さえ感じられました。そのうえ、当時、新型コロナウイルス感染拡大防止のための給食黙食や、マスク着用の要請等があったことも重なり、学校教育が、支配的で、同調圧力に服従することをよしとする、ピリピリした軍隊教育のようにさえ感じられました。だから、学校教育を受ければ受ける程、子どもの好奇心や主体性が損なわれていくのかもという不安を、保護者として抱きました。給食黙食やマスク着用の要請が無くなって、〇〇先生がクラスの担任になってくださって、今は、「〇〇先生に会えるから」という理由で、うちの子は、全部の授業に出席できるようになっておりますが、学年が変わり、担任の先生が変わったら、指導・教育方針によっては、もしかしたら、子どものモチベーションが下がるかもと、やや心配はしております。『学校の「当たり前」をやめた。』の著者の工藤勇一先生が、「クラス担任制の廃止」を実施しておられますが、そのような施策をうちの子の学校でも、取り入れて頂くと、クラス担任による指導・教育方針の偏りが、より緩和されるのかな？でも実施は難しいのかな？等と思っている今日この頃です。

その他、特別支援学級の児童に関しては、現在、児童２～３人あたりにつき１人の教員が授業中、児童に付き添う形で学習の補助がおこなわれており、学習進度別指導も比較的なされておりますが、特別支援学級に入れてもらえていない児童に関しては、基本的には、担任の先生が１人で対応せざるを得ない状況のため、特に算数は、一斉授業をやめて、ICT をより活用した進度別学習ができるようにして頂けると有難く存じます。その際、特別支援学級児童担当教員と普通学級担当教員とが、特別支援学級に属する児童か否かにかかわらず、必要に応じて児童を分け隔て無くサポートしたり、子ども達同士の教え合いを容認したり、地域の人々にもサポートに入ってもらったりなどしていくことで、児童にとって、授業がより有意義なものになるのではないかと考えます。また、その時間に算数をやりたくない児童には、算数を無理強いしなくてもよいと思います。そうなると、あらかじめ教科が定められた時間割すら、必要無くなってくるのかも知れませんが。ICT を最大限に活用すれば、それも不可能ではないはずです。

公立の教育が合わない場合、経済的に裕福な家庭であれば、オルタナティブ教育を受けさせることもできますが、経済的余裕の無い家庭では、公立の教育を選択せざるを得ません。だから、不登校対策として行政に望むことの１つには、オルタナティブ教育を受けるための経済的援助が挙げられます。しかも、保護者の所得制限はなしでお願いしたいです。保護者の所得が高額でも、様々な事情によって、生活苦に陥っている場合もあるからです。

- 我が家は FS や通信制のサポート校、個別指導、精神科のカウンセリング等を駆使して、ひきこもりになることなく、専門学校への進学も果たせています。アルバイトで月に５～６万円は稼げるようになりました。しかし、どれも高額で利用を諦める人は多いと思います。学校を利用していないのだから、利用している FS の方に税金を廻して頂きたいと切に願います。
- FS の金額が高い。高くて通いたくても通えない人はたくさんいると思います。親としては家にずっといるんじゃなくて、他の安心できる居場所が欲しいです。みんなが通えるような金額にしてください。宜しくお願いします。

- 我が家には、もう義務教育年齢の子どもは居ません。今後、不登校児のみえる親御さん、学校に行きづらいお子さんが少しでも居心地のよいと思える場所があれば良いなと願っています。不登校って言葉はあんまり好きじゃない。ウチの子は不登校だった事を悪く思って無い様子です。不登校だったお子さんが堂々としていられる環境を願ってます。義務教育期間が過ぎても相談出来る機関に繋がって行けたらありがたいです。
- 不登校の子どもでも、それぞれ度合いが違うと思います。FS に行けるか、全く家から出られないか。子どもが男の子か女の子か、また学年が違うだけで、同じ不登校を持ってる親の悩みは違います。不登校の子どもという枠だけでなく、それぞれにあったサポートや相談、または同じ悩みを持つ親同士の交流がもっと頻繁にあるといいなと思います。普通に通学できている子ども達の親には相談できず、子どものためにこれでいいのかと、親は孤独に戦っています。
- 高校中退からの無所属は、ひきこもりに直結する。
- 私達親の世代は、学校に行くことが当たり前で、今ほど不登校の子どもはいなかった。低学年では学校に行くと友達と遊べて、楽しい所だった。高学年になるといじめなど友達関係で問題もあって、今の時代に近い感じがする。今の子どもたちは低学年から多感であり入学当初から様々な理由で不登校になるように感じる。とはいえ、不登校の子どもや家族は、世間からは少数派で当事者でなければ苦労はわからないし、共感されないので相談も進まない。親のエゴなどもあるだろう。その結果、親も疲弊して病んでいき好転しづらい環境となる。学校に行くも家で過ごすも FS などに行くも、どこに行っても良いので、同じ評価にしてあげてほしいと思います。
- オンラインでも授業を受けたら出席扱いにしてほしい。休むことに対して子どもの中での罪悪感が減ると思う。
- 話を聴いてもらえる場所。一番つらいのは、不登校のお子さんかもしれないけど 親御さんも、しんどくて辛いと思います。私が参加した理由は、不登校ではなく、娘が高校を卒業してから外へ出なくなったからです。勤める事が出来ない感じでした。
  不登校ではなく、ひきこもりで悩んでいたので利用団体に参加させてもらいました。
  現在、娘は来月で 25 歳になります。家を出て、彼氏さんの家で生活しながら、仕事をしています。何の仕事をしているのか知りません。こんな、よろよろした気持ちを抱きながら娘が社会で労働しているなら嬉しいです。でも、その環境が彼女にとってどうなのかが心配です。
- 不登校だけで、親はそんな気にしなくてもよい気がします。子どもが望む人生を歩めるように力になってあげるだけしか、自分の出来る事はないと感じました。
- 進学の心配をしていると、今はどこでも行けると言われるが、県立高校に行けると思ってたら、結局、通信や授業料の高い私立となってしまう。学校に行けず勉強できなかったら、学費の安い県立には行けない。どこでも行けるって、行けないじゃないですかって思う。不登校でも、安い学費でいける高校を作るべき。ただでさえ、学校行かないと余分にお金がかかるのに、学校も高い学費の高校にしか行けないし、行ける高校も世間からみたら、評価の低い高校。いじめられて学校にいけなくなって体調崩したのに、高校も低レベルでバカにされて、なんともいえない心境です。私だって、いじめられなかったら、私立なんて経済的にも行かすつもりもなかった。でも、県立高校なんて受験資格もない、順調に行っている親は、不登校の親の気持ちなんてわか

らない。所詮人事。みんな自分さえ良ければよいんだなというのを知りました。

- PTA の役員をしています。知識がないので、どうして良いのか分からない。自分の子だからまだいいが、よその子だったらどう対応すればいいのか分からない。不登校の原因が分からない。児童数が減少しているのに、不登校の児童生徒数は増加している。この原因、背景に何があるのか興味深い。
- 学校で、勉強の遅れに対する補習を充実させて欲しい。学校でいじめを監視する先生を配置して欲しい。学校と、地域の連携を図って、こもりがちな家庭へ、外部の人を派遣して欲しい。話し相手になってくれる人など。助けて欲しい。
- 休んでも大丈夫なんだ、逃げても大丈夫なんだということを子どもたちにもっと伝えてあげてほしいです。中３の１年間を不登校で過ごし卒業式にも行けませんでしたが通学制の通信高校に入学し、自分のペースで登校し、色んな体験や同じ経験をした友達と出会い、次年度入ってくる子達のサポートをしている中で安心して学んでいける環境ができました。二年生からはほとんど毎日登校できるようになり、大学に進学し、現在大学３年生に在籍しています。あの学校に行かないと決め、行かなかった１年間がなかったら、今の落ち着いた子どもの環境と子ども自身の心はなかっただろうと思います。親として大変辛い時間でしたが、今はもっと早くに気づいてあげ、もっと早く休ませてあげればよかったと思っています。
- 親の性格が影響したり、教育が悪かったりしたのかなとずっと悩んでいるが、私の家の場合、学校の担任の先生の接し方により少しずつ状況は良くなり変わったので、先生や家族以外の第三者の助けは必要だと思う。
- 不登校になって、元気が出るまでの間は家にいるしかなかった。元気がなくても受け入れて貰える居場所が欲しかった。また、小中学校が合わないと、９年間辛い思いをして過ごさなくてはならない。多様な学びの場を整備して欲しい。
- 現在の日本の学校制度は幅の狭さを感じる。選択肢の少なさが、当事者、家庭、学校関係者をそれぞれ苦しめているのではないかと思う。
- 長年に渡り同じ児童から暴力行為を受けていますが、特性のある児童だからで終わらせないできちんと普通学級に在籍しているのだから普通学級相当の指導をして欲しい。子どもは何度も何度も自分で力を養い立ち上がってきましたが、加害児童は普通に登校、再度暴力行為を陰で行う。(久しぶり。一発殴らせてと言い殴る)文科省は被害児童に寄り添うよう通達を出しているのに、いつまで被害児童が精神追い詰められ、狭い選択肢の中で生活していかなければならないのか疑問です。暴力を暴力で返せない優しい子どもがいる現状をもっと知って欲しいし、被害児童家族がどんな苦しみの中で生活しているかも知って欲しいです。この先消えない苦しみを抱えたまま生きていかなくてはなりません。加害児童だけではなく、教師の対応で２次被害もありました。あまりにも対応を知らなさすぎるので、校長や教師に指導をお願いします。何処に相談しても改善はなく、日にちだけが過ぎています。もっと現状を知ってください。本当に苦しんでいます。他県では市教育委員会から独立した物を言える機関や頑張って改善している校長もいます。簡単ではないのもわかりますが、暴力を振るわれた子どもを安心して登校出来るようにして下さい。他県の取り組みで良いところは取り入れて下さい。

　相談電話を受けた方はもっと携わって下さい。

加害家庭は普通に仕事し自分たちの生活を守り、被害家庭は全て自己負担です。ヨーロッパでは加害児童は教育指導を受け、転校させられるそうです。被害児童に光を当てて下さい。

⑦ 学校を休んでいる間、嫌だったことの子どもの回答でその他の内容

- 先生との関わりが嫌だった。
- 人に会うのが恥ずかしいという思いが強く嫌だった。

⑧ 学校に求めたいことの子どもの回答でその他の内容

- 先生たちの対応の改善。

⑨ 三重県に求めたいことの子どもの回答でその他の内容

- 教育支援センターなどを通常の学校の近くに設置しないでほしい。
- 安心安全な場所。

⑩ 不登校に関することで、感じていることや考えていること＜子どもの回答＞

- 娘は県外にいる為、親で入力しましたが、あまり覚えてない事が多いと言っていました。ただ、後々あの時はお母さんがこうしたのが嫌だったとか、言ったのが嫌だったとか、不登校中の対応を思い出しては言う事もありました。今は元気に過ごしています。
- 私は中１から不登校になりました。同級生に会うのがすごく嫌で気軽に近くに出かける事もできませんでした。同じクラスの人にどう思われているのか毎日考えていた気がします。学校を見るのも嫌で先生にも会うのも嫌で中学校が一気に嫌いになりました。家では好きなアーティストの番組を観るのにヘッドホンを繋げるほど拠り所を求めていました。それによって少しでも自分を落ち着かせて、現実と向き合わないようにしていたのかなと今はそう思います。自分でもどうしたらいいか分からず、何が正解なのか勉強もする気がおきない、こんな自分が嫌だとずっと思っていました。

  不登校になりかけている時は、母に「どうするの？行けるの？」みたいな感じの言葉を言われ、それが当時は１番辛かったです。いつからかは覚えていませんが、少しでもどこか出かけれるようになったとしても必ずマスクは必須で、ないと落ち着かず怖かったです。近場は特に頭を下げて顔を隠していました。夜ご飯は絶対テイクアウトで、フードコートに知り合いがいるんじゃないかと思い、色々辛かったです。

  でも、母のことは大好きで仲が良いので嫌いになるとかは一切なかったです。姉は不登校ではなく、初めてだったので母はすごく混乱していたよな…迷惑かけたなあ…申し訳なかったなと…でも色々なところで相談してくれて、私をどうしてあげたらいいのかいつも考えてくれてて嬉しかったです。とても感謝しています。

  私が不登校の時は夜のドライブがすごく大好きでした。母にほぼ毎日仕事終わりに連れて行ってもらい、私の好きな曲をずっと聴いていました。ドライブに行くのが落ち着く感じでした。父とは仲が悪く、とても嫌いで全く関わっていなかったです。今は少しだけマシにはなりましたが…でもやっぱり不登校の時に嫌な思いをした事があったので好きではないです。

  中２の後半頃、母に支援センターのことを教えてもらい、高校で過ごせるよう練習

で時々通うようになりました。そこで、ありがたいことに優しい先生に出会い、行った日は必ず帰りにその日の不安なことをたくさん聞いていただいてました。本当に親身な先生で今でも連絡を取っています、その先生のおかげで高校入学して何とか過ごせました。でも高校生活は楽しい訳ではなく、毎日は行けず週２でした。初めは電車通学できていましたが、しんどくなり祖父に毎回送り迎えをお願いしていました。遠かったのでとても申し訳なかったなあ…って思っています。

支援センターに通っているときから、心療内科にも通い始めました。初めは不安で、母に一緒に診察に入ってもらっていました(本当は本人だけじゃないといけないです)。

今は車で毎週受診しています。先生と相性が良かったので安心して話せます。

- 不登校は将来どうなるのかが不安だと感じている。
- 僕の周りだけかもしれないけど不登校にあますぎる気がする。
- 学校に行く意味が分からない。FS に行けるぐらいなら学校に行ってる。
- 学校に行っても、良いことは１つもない。
- 学校に行かなかったり、いっぱい遅刻早退したりしたけど、後悔はしていない。
- 勉強が分からない。
- 暴力をなくして。
- 学校はみんな同じ授業を受けて、よくわからないルールを作って守らせて、先生は理不尽に怒ってきて窮屈でした。人が多いから騒がしいし、いくら勉強をしに行く場所とはいえ息をつく間もない。逃げた保健室でも一時間しかいられないなど、居場所のない学校は行かなくなって当然だと思っています。教育支援センターはとても居心地のいい場所なので、将来的に一人ひとりに合った対応が普通になってほしいと思っています。学校に行くことが普通、行ったほうがいいというのが常識なら、行き続けられる場所であってほしいです。
- 色々な学校の形態が増えると良いと思う。